

令和6年能登半島地震において活動された内容（避難所）

避難所名	コミュニティ の形成	物資等の 配布・管理	物資 支援	避難所 開設	炊出 支援	その他
小丸山小学校		○				トイレ等共用スペースの清掃等
田鶴浜コミセン、能登島コミセン、和倉温泉お祭り会館、田鶴浜体育館	○	○		○	○	市職員の業務として、防犯確認、タンク給水、コロナ感染症隔離、残飯処理、汚物処理、掃除、避難者のケンカ仲裁、視察取材対応、生活再建制度周知
高階地区コミュニティセンター						避難所内を土足禁止にし、できる限りの消毒清掃を行った。（その後はほぼ業務で滞在していたためあまり活動はできていません。）（防災士として行ったかどうかは微妙です。）
和倉小学校						
青葉台町集会所	○	○	○	○	○	水の設置、配布、ビニールシートの配布
松本町内会		○	○		○	毎日月～金は50食、土日は100食で来た人には物資を配布した
南大呑地区コミュニティセンター				○		約1ヶ月水道水が使えず、自宅井戸水、熊渕川より300L用タンクにより朝・夕2階避難所へ運んだ（トイレ用）
崎山地区コミュニティセンター						ライフラインの諸対応
御祓地区コミュニティセンター	○	○	○	○	○	り災証明書の代筆、相談業務（相続、公費解体、その他）
中島小学校			○			
菅原町自主避難所（菅原町会集会所）	○	○	○	○	○	指定避難所では町会単位のコミュニティ形成に不都合多いため、町会施設が損壊していなかったことにより開設した（町会長談）運営は町会役員や壮年団が中心であり、私個人はお手伝いとしてのサポートでした。
御祓地区コミュニティセンター		○			○	御祓コミュニティへ高齢の方の物資等をもらいに行っていた。町内のアパート高齢者へ配布した。
七尾更生園	○	○	○		○	かねてより中挾町会と七尾更生園との間で締結された防災協定に従い、中挾町内の住民を避難誘導し、避難する。34名避難（小児を含む）その結果を七尾市役所に報告した。
県境パーキング、民宿サンヒルズのと		○			○	
金ヶ崎コミュニティセンター体育館		○	○			支援物資を一人暮らし宅、情報の知らない家に届けた
矢田郷地区コミュニティセンター						勤務先が避難所となっているため、お手伝いとして携わっていました
中島小学校		○				1/1のみの活動

令和6年能登半島地震において活動された内容（避難所）

避難所名	コミュニティ の形成	物資等の 配布・管理	物資 支援	避難所 開設	炊出 支援	その他
菅原集会所	○	○		○	○	
和倉小学校		○			○	1月3日より1月末まで自主的に参加
御祓地区コミュニティセンター		○			○	
七尾更生園		○		○	○	地元、中挾町町民が避難してくる、水、食料の提供等
矢田郷地区コミュニティセンター				○		
中島小学校						交通誘導をした。車両がたくさん押し寄せたため小学校グラウンドに入れました（満車となった）。学校周辺の渋滞緩和になったと思う（学校に向かうには細い2本の道路しかなく、上がつまると車両が前に進めない）。避難所運営はとにかく早くやらないことから市職員の誘導指示に従っており、防災士として口出しできる状況（雰囲気）ではなかった。※防災士はいないか、民生委員はいないかと声かけしてくれるスタッフはゼロであった。
御祓地区コミュニティセンター						
衆和館	○	○	○	○	○	自主避難所で6世帯12人が震災から3月31日まで避難所暮らしをしました。電気は1月4日の夜、水道は2月24日にきました。
高階地区コミュニティセンター	○	○	○	○	○	清掃、ゴミ出し、フロアの消毒、トイレ水の管理 等
徳田地区コミュニティセンター、田鶴浜地区コミュニティセンター、和倉温泉お祭り会館			○		○	
和倉小学校	○	○				心身の健康状態の聞取り。また高齢者世帯や要配慮者等の毎日のバイタルチェックを行った。トイレ誘導、排泄介助、食事の配膳や運んだり、下膳の手伝い。感染症流行時の適宜の救急車同乗。その後服薬管理や手伝い、健康観察を行い、毎日市役所、京都市役所D-MAT等に連絡、報告、協議を行った。苦情対応、相談等においては市役所職員や必要に応じて包括支援センターにもつなげ話し合いを持つ。運営にまつわる諸問題等でグループを作り情報を収集したりする（清掃当番、ごみ当番等を話し合う）
和倉小学校、和倉コミセン						防災士としての活動はできなかった（できる環境ではなかった）。民生員であることから、避難所の高齢者の集まり、傾聴等時間を決め活動した。
郷橋ふれあいセンター				○		地震発生時の一次避難所で後日各地区避難所へ送り出し

令和6年能登半島地震において活動された内容（避難所）

避難所名	コミュニティ の形成	物資等の 配布・管理	物資 支援	避難所 開設	炊出 支援	その他
三室町公民館				○		
石崎地区避難所		○		○	○	石崎地区については石崎小体育館が避難所に指定されていなかったが、付近の住民が停電、寒い中避難していた。大津波警報が出たこともあり、高台の養泉寺の境内に避難した。
サンライフプラザ						避難所のトイレ清掃、避難所閉所の手伝い
能登島コミュニティセンター				○		
西三階町集会所				○		元日から1週間程度開設したが、近くの鳥居が崩落の危険もあり、途中で車中泊に切り替えた住民が15名ほどいた。配布された物資の保管場所として活用し、必要に応じて持って行ってもらった。当日の泊はなかった。
矢田郷地区コミュニティセンター						R6.1.1の発災当初～1.12まで、避難所開設、運営の協力を行う（夜間の当番、水の管理、施設内巡回、支援物資受入の協力等）1.13-14自宅の片付け、1.15～仕事のため協力できず
七尾市総合体育館						ストーブの補充等
七尾市総合体育館			○			
吉田会館	○	○		○		町会の運営に協力
矢田郷地区コミュニティセンター				○		私は1/1.1/2の2日間矢田郷コミセンにて避難所運営（物資等の配布活動）の支援を実施【1/1午後4時10分発災後、矢田郷コミセン役員の方々が自主的に矢田郷コミセンに集合し避難所開設に向け、各部屋の照明や食料物資等の配布活動を精力的に実施した。】私は1/1夕刻、七尾市文化ホール側の職員・主要電源等が開設されない中、矢田郷地区町会連合会会長より、防災部会で備蓄している照明機器を早く備蓄庫より取り出して矢田郷コミセンに設置してほしい旨の依頼・設置。さらに矢田郷避難所2階大会議室のブルーシート設置作業や食料物資等の配布支援活動に携わった。1/2日中に自家野菜の提供と1/2夕食の配布支援活動に携わる。
西湊地区コミュニティセンター						自分が避難してて、自宅のブロックが道路に倒れて近所の人に助けてもらってどけたり、水確保にと毎日あれこれしたら、気にはなっていましたが他の方の所には行けませんでした。仕事先に毎日でもないが出勤したり、石崎の避難所のほんの少しお手伝いをしていました。
中島地区コミュニティセンター 豊川分館	○			○		職員のため1/1から5/17まで避難所運営に協力していました
山王小学校	○	○	○	○	○	
石崎小学校体育館			○			所在確認

令和6年能登半島地震において活動された内容（避難所）

避難所名	コミュニティ の形成	物資等の 配布・管理	物資 支援	避難所 開設	炊出 支援	その他
石崎小学校体育館		○		○		安否確認
石崎小学校体育館	○	○				自分も被災し自宅で住めなくなり、あまり活動ができず、1/8～半日を4回しか出れませんでした。
矢田郷地区コミュニティセンター						ボランティア活動
			○		○	管理栄養士として、アレルギーなどの要配慮者の確認、支援
吉田会館及び田鶴浜コミセン	○	○		○		発災から3日間は地元の緊急避難場所として吉田会館で上記業務、1月7日以降田鶴浜コミセンで駐車場、関係車両の交通整理を行った。
七尾城山体育館		○		○		
河崎集会所	○	○		○	○	
中島小学校	○					
熊野集会所（自主避難所）	○	○	○	○		
東湊地区コミュニティセンター	○	○	○	○		避難所運営1月から3月
大田町集会所	○	○	○	○	○	要配慮者への支援
須曽町集会所		○	○			町内の人に市役所からの配布物資届けた
赤浦町						
田鶴浜体育館						トイレ掃除（館長の指示のもと手伝う）
田鶴浜丸山町集会所	○					
横見集会所、西岸分館	○				○	横見集会所（1日-3日まで）西岸分館（4日-7日まで）
東湊地区コミュニティセンター	○	○			○	防災士会より依頼等はありませんが、他の防災士の人と炊き出し等実施しました。
小丸山小学校		○				
瀬嵐町内会	○	○	○	○	○	瀬嵐集会所が海の近くのため、高台にある旧万葉倶楽部跡地にて自主避難所を開設し運営しました。
中島コミセン西岸分館						指定避難施設が一部被災したため、当初受け入れ態勢に時間を要し、後日訪問したところ、近隣の住民ボランティアや市職員で対応していたので、十分な活動ができなかった
						家は一部損壊であり、生活自体は困難ではなかったが、水道が使用できず、犬が1匹おりましたので、一時〇〇の娘の家に犬を連れて避難いたしました。水道が出たので帰りましたが、帰った後に水道の代わりに井戸水を近所や友人に使ってもらうぐらいの活動のみです。防災士会の募集で珠洲にボランティアにでかけた（4/28）
徳田地区コミュニティセンター			○			

令和6年能登半島地震において活動された内容（避難所）

避難所名	コミュニティ の形成	物資等の 配布・管理	物資 支援	避難所 開設	炊出 支援	その他
高階地区コミュニティセンター					○	
和倉小学校		○				届いた支援物資の仕分け・管理。自身も被災しているため充分なことはできませんでした。
千野会館					○	食糧、食材（野菜等）の提供
北大呑地区コミュニティセンター						北大呑地区は交通も電力も被害はなかった
中島地区コミュニティセンター 西岸分館	○					ユニットバス設置、水道、下水配管、駐車場穴埋め等
矢田郷地区コミュニティセンター						避難所運営、雑用、手伝い（物資の搬送、ゴミ回収等）
中島地区コミュニティセンター 西岸分館	○	○	○	○	○	避難者の健康管理、管内清掃、ゴミの仕分け、ゴミ出し管理、支援物資の要望まとめ提出、困りごと相談、避難者の安否連絡、り災証明など提出書類の相談や記入の仕方補助、ボランティア団体との連携、行政への対応報告、建物管理、修繕要望、赤十字や警察など諸団体への対応
中島地区コミュニティセンター 西岸分館		○		○		西岸地区の拠点として、物資の配布、管理をした。当館では避難者同士で炊き出しを行った
高階地区コミュニティセンター		○			○	日付の古い物資などを活用しメニューを組んで炊き出しを行った。畑にできたものを利用した。各家庭に回り必要なものを聞き配った（水、トイレットペーパーなど）
石崎町避難所及び養泉寺（津波 避難所）	○	○	○	○	○	衛生管理（トイレ、水、掃除など）、ボランティア団体との連携、要支援者（寝たきり高齢者など）への配慮→介護スペースを作り担当者を配置。避難者及び支援者の健康管理（検温、血圧）→感染症対策、発生者への配慮（隔離）。避難所に来ていない被災者への支援→物資の配布、テイクアウト（炊き出し）安否確認。ペット対策、子供たちへの支援、車中泊者への支援、諸手続きの窓口など
白馬町集会所			○	○		
西湊地区コミュニティセンター	○	○	○	○		～1/31までの1ヶ月会社にボランティア休暇を申請し、西湊コミセンに宿泊して避難所の運営管理のお手伝いを努めた
田鶴浜地区コミュニティセンター						自衛隊給水の現場への調査実施（七尾総合体育館）並んでみたが予想通り貰えず。ほかの自治体は1世帯の配布量を決めていたが、七尾市はポリタンク36ℓを平気に持ち帰る人が多かった。その情報共有をした。
山王小学校		○				

令和6年能登半島地震において活動された内容（避難所）

避難所名	コミュニティ の形成	物資等の 配布・管理	物資 支援	避難所 開設	炊出 支援	その他
七尾市立中島小学校				○		
穴水町中居活性化センター	○	○	○	○		避難所誘導、声掛け、避難所での声掛け、閉じ込められた家屋からの救出と荷物（布団など）の搬出
鵜浦町中浦集会所						
深浦集会所		○				ただし市からの案内での活動です
石崎コミセン			○			
半浦集会所、妙万寺、漁業組合施設	○	○	○	○	○	
半浦集会所、妙万寺、漁業組合施設	○	○	○	○	○	
若林町集会所（避難所の指定はされていません）	○	○	○	○	○	自宅が危険と判断された方が、一時は15名程避難されました。私は自宅が少しの被害だと判断し、徳田地区防災士会と連絡して徳田地区コミセンに避難されるまでの間、トイレの水確保、食料確保、飲料水確保、その他の支援を数日間行いました。自宅から炊き出し、毛布貸出など。
大田町集会所				○	○	1-4日間炊き出し支援をしました。20名以上
佐味町集会所				○	○	町会対応が遅かった。町会の役員を集めたのは4日でした。チョット遅すぎ。町会避難所に1日-4日まで述べて35人食事の世話をしました（個人で、1日2食、朝夕）。避難者は5日から東湊コミセンに移動した。東湊コミセンに2.3度食事他差し入れをしました。
矢田郷地区コミュニティセンター	○	○			○	感染対策、市民の困りごと相談、り災証明書申請相談窓口、避難所運営（医療班が不在の時は医療者として待機）、子供の居場所づくり、女性のプライバシー配慮
中島体育館						
石崎町女性防災士会		○		○	○	1日：地震後300人以上が高台にある養泉寺に避難。停電・ストーブで暖を取る。ローソクで照明、トイレ問題一番大変でした。2日石崎小学校の体育館に避難（指定避難所ではない）物資も備蓄も無い、体育館寒い、ストーブが足りない、トイレ崩壊。
東湊小学校体育館、東湊コミセン	○	○				
矢田郷地区コミュニティセンター		○			○	
石崎						仕事で活動出来なかった

令和6年能登半島地震において活動された内容（避難所）

避難所名	コミュニティ の形成	物資等の 配布・管理	物資 支援	避難所 開設	炊出 支援	その他
山王小学校						防災士であることは話したが、普通のボランティアと同じ活動
山王小、ミナクル		○		○		初日の毛布配布、ガレキの除去
田岸集会所	○	○	○	○	○	田岸集会所を自主避難場所として、情報の収集・発信の場、支援物資の保管場所などとした。地域情報紙の発行：10回（避難所開設、防犯、ゴミ収集、不審者情報、上水道の状況など）以上発行した。町会広報紙：3回（不定期に発行している「田岸の郷」の号外として、町会内の地震被害状況、避難活動状況など）発行した。在住者の動向把握：毎日（ホワイトボードに記載）防犯巡回：不定期に夜間の巡回をした。郵便物回収：不在者宅の新聞や郵便物を回収した。生ゴミの埋設場所の整備：重機で穴を掘った。被災場所への立ち入り規制：神社での倒壊箇所、崖崩れ場所など。倒壊家屋の撤去：垣根が国道249号線の1車線を塞いでいたので、トラック、重機などを用いて住民で撤去した。物資等の配布・管理、県外のJC団体より頂いた支援物資を、町会内の各戸へ配付した。また、西岸地区コミュニティセンターや各種団体などから頂いた支援物資も、町会内の各戸へ配付した。支援物資の受け入れ手伝いや、支援物資の町会内への仕分け、物資の支援、住民の町会外の親戚縁者（輪島市、珠州市含む）とその周囲の方々、西岸地区コミュニティセンター、隣接町会の工場、福祉施設などに支援物資を分けた。中島保育園へは、支援物資として頂いた残りの紙オムツとウエットティッシュを提供した。頂いた支援物資を町会外（親戚縁者、その周囲の方々、勤務先など）に届けた。避難所開設発災翌日（1月2日）から、田岸集会所を町会内の住民を対象とした「自主避難場所」として開設した。（1月末日で閉鎖した。）日中は、できるだけ誰かが在住しているように心がけ、夜間は毎日、宿泊をした。自主避難場所の衛生管理として、室内、台所、トイレ等の掃除を適宜実施した。炊出し支援水道、電気が不通のため、集会所の台所で住民を対象とした「炊出し」を行った。集会所の台所は「プロパンガス」のため炊事が可能であった。電気が回復するまでの2日間？複数回行った。仕事が休みの日に、集会所の自主避難場所に詰めている方々へ調理して提供した。（不定期に数回。）その他日常とは異なる生活環境で、軽微な体調不良の方への食事の摂り方（野菜の摂取）や、就寝の仕方を助言した。奥能登から野々市市への移動途中の家族（体調不良のため、トイレ使用の求めに応じた。）を、自主避難場所で一晩宿泊してもらった。その際に、食事の提供をした。
袖ヶ江コミュニティ						コミュニティでの支援は行っていないが、避難所撤収における後片付けに参加
石崎小学校、石崎コミュニティセンター		○			○	名簿作成、受付業務ほか

令和 6 年能登半島地震において活動された内容（避難所）

避難所名	コミュニティ の形成	物資等の 配布・管理	物資 支援	避難所 開設	炊出 支援	その他
能登島コミュニティセンター		○			○	
石崎小学校		○		○	○	

令和6年能登半島地震において活動された内容（避難所以外）

主な活動場所	行った活動
舟尾町内	町内の一人暮らしの高齢者のみ世帯などを町会長とまわって安否を確認した。
実家付近	一時避難（津波）の声掛け、誘導一時避難場所での避難者への声掛け、今後の対応、サポート案内
特になし	特に活動する内容が統一されていなかったため、家族内での避難支援に努めた。日ごろからのコミュニティも形成されていないので。
青葉台町町内	町内の各家庭をまわり家具等の片づけ
松本町内仮設風呂	掛け湯を支援した。常時8人くらいは入れる。男女時間別利用。1/5-3/20の間毎日
町内	一人暮らし世帯への物資運搬
鵜の里会館	トイレ施設の管理等
災害ごみの回収	御祓地区総出の災害ごみ回収を計画し、デカ山保存会を中心にボランティアをして七尾高校生、石川県郵便局長会、石川県土地家屋調査士会等の参加を得て、エリア別に3回実施した
中島保育所	トイレ用の水くみ（1日分は約600l）日数で15日くらいだったかな？住宅の壊れた箇所の応急手当（防犯含む）を数か所
自宅	
負傷の有無を含めた（高齢者に対する）避難者の健康管理等	町内住宅の安否確認を重点的に行う。結果を市役所へ報告。
県境パーキング駐車場	炊き出し、老人のケア
高齢者宅に声掛けをした（地区に避難所がないので）	怖い思いをした話を聞いて共感してあげると表情が明るくなってきた
災害ボランティアセンター	現地調査やボランティア本部のお手伝い（現在も〇〇で活動継続中）
	自分の上も被災していたため活動できなかった
中島体育館	体育館内にて各地区ごとに分けた
	町内の見回り（水道が出ないとき道路より水が溢れていて2か所連絡、地震後9か月以上経つのに街路灯が6か所切れていて暗い、歩道が通れない、パイプ破損のためコンクリートのフタを取り除くも山積みでガタガタ危険）市役所に連絡し全て解決ありがとうございました

令和6年能登半島地震において活動された内容（避難所以外）

主な活動場所	行った活動
自宅	自分の住む町内の1/3が高齢者世帯なので、1月中旬から1か月間5回×30世帯。水と支援物資の配布、安否確認をしました。
七尾市内	震災ゴミ等の片付け作業
岩屋町町内	町内会長として町内の被害状況を調査し、その結果をまとめ市への要望書を提出した。又、チーム御祓の不用品回収の手伝いをした。
輪島市、御祓地区全域	物資の支援、廃棄物収集
町内	被災した住民の状況確認と避難所の届いた支援物資等の配布。町外に避難した所在地調査。
輪島市門前町、志賀町	市外の親戚縁者や、その周囲の方々、勤務先などに支援物資を届けた。
担当町会内全域	地震後、公共避難所で緊急物資の配布予定をヒアリングしたが明確な返事がいただけなかったので、町会で購入及び個人的に段取りした物資（水、シート）を配布した。
七尾市土木課	交通確保のための道路応急対応（道路応急工事統括、市民要請対応、業者指示など）
七尾市災害ボランティアセンター（2月～10月）	現地調査、県防災士会としての後方運営
和倉小学校	地域の民生委員、児童委員でもあったため、被災者のメンタル面、身体面、苦情等も含め、毎日、お世話を可能な限り寝る暇なくしていた（食事、排泄介助等、機関や病院・薬局との連絡調整）
担当区域（和倉）	防災士としての活動はできなかった。活動出来る環境ではなかった。民生委員としての安否確認、見守り、物資等の配布
三室町内	毎日朝夜パトロール
西部集会所	私の親戚よりの支援物資を種類分けして配布していた
自宅	数日後に水道の利用が出来たため入浴支援を行った
石崎地区コミュニティセンター	避難所の運営、物資等の搬入、管理。朝8:00～晩9:00頃まで
町内の安否確認	他の避難所と連絡し他町からの避難者の受け入れ
七尾市災害ボランティアセンター、他各ボラセン	ボランティアセンター運営、一般ボランティア

令和6年能登半島地震において活動された内容（避難所以外）

主な活動場所	行った活動
町内	町民に避難を呼びかけた。集会所や〇〇コミセンの様子を確認したり必要な情報（水道栓、ガス栓を閉める）等の連絡に回った。
天神川原町	町会長を兼ねているので、町内備蓄のブルーシートの配布（1/4）井戸宅の案内等
町内、町民宅、土蔵解体	ボランティア依頼、市税務課への罹災届、福祉課、都市建築課（空き家関係）等の連絡調整
地区民生委員として要支援者宅の訪問等	安否確認や物資（特にペットボトル等）配布
生産組合の管理する池の落水作業に従事	1/3午前中、石川県中能登総合事務所のため池担当より、緊急電話連絡受信。至急、生産組合の管理する池の堤体（池の土手）が損壊し危険な状態であり、即刻落水作業を実施してほしい旨。即刻、生産組合員4名で落水作業（水路草刈り、止栓口）以降日々落水作業に従事（すぐにはため池水が落ちないため日々管理を要した）*数か月後、損壊箇所を届け出し、現在は七尾市農林水産課に修繕改善依頼中であります。
西藤橋町	高齢者に物資（食料、水等）を家庭へ配布した
自社または能登町の取引先	物資の配布・支援
集会所開放	住民の安否確認、住宅棟の被害確認、田畑の被害確認
老人会、家庭訪問	訪問活動して安否確認、水の配布、アンケートの実施する
中能登町 社会福祉法人つばさの会（職場）	福祉避難所の運営
南ヶ丘町内	自主避難所となっていた集会所の避難者への食事支援と高齢者など要配慮者の確認
七尾市、志賀町など	5日で5000枚の約束プロジェクトでの畳配布（避難所）
河崎地内	日用川の水位上昇の確認を発生直後から数回。町会内の道路に隆起や陥没がないか調査した
町内	家具の異動、屋根の雨漏れのシート張り
熊野集会所	一時避難所であったため、発災後地域住民や町外の方が集会所や駐車場で車の避難をして、その流れで避難所として2週間、高齢者の方が中心で7-8人避難していた。その方々に水や食料を提供した。物資については中島小まで取りに行く必要があった。日中は家に帰り、夕方は集会所を利用する方もいた。
ボランティア団体の支部	支援物資の運搬、安否確認、医療支援の提供の場の設営と管理、行政手続きのサポートなど
東湊地区、田鶴浜	東湊地区：青パトで巡回、田鶴浜：家の見張り作業、ゴミ配送

令和6年能登半島地震において活動された内容（避難所以外）

主な活動場所	行った活動
自宅	断水中の間は自宅の井戸水を無料開放し、自由に汲みに来てもらった（注意事項などは看板を立てて知らせた）
自宅周辺	津波警報の際の避難の声掛け
大津町集会所	支援物資の受け入れ搬入、高齢者の1人暮らし、2人暮らし宅、安否確認と物資の配布
西岸分館から町民宅へ	物資の配達
長浦町会（地元）	大津波警報が発令されたが、町会集会所が被災し、利用できず、高台のうるおい公園に避難する際に町会役員とともに一人暮らし老人や高齢世帯の方々を誘導し住民の安全確保を行った
出来ることは限られていたと思う。ボランティアの方々に震災の時の不用品、ゴミなど（下駄箱）を運んでいただいたのは本当にありがたかったです。〇〇教室は体育館が使用できないので週一で我が家を利用してもらった。	町内会で防災倉庫のカギを開錠、副会長、会計の私で預かりましたが、開放できず、鍵をもっただけで周知した方がよいか迷いました。近所に行くにも余震で倒れる可能性があったので外には出られませんでした。物資については市役所が近くだったので、配布の情報を得て通いました。ありがたく水やブルーシートなどをいただきました。
自分の住んでいる地区	地区の皆さんの状況確認。町会とは違う自治会の役員をしているため。防犯委員会の幹事（青パト隊）にも在籍しているので、避難所及び地区安全確保のため、発災後、空き家等に不法侵入等が発生しないようにパトロールを実施。自分の住んでいる住民の皆さんの事、〇〇の避難者の状況、町会長との連絡、断水のため、市への報告確認、地区内の道路の崩落
七尾駅前	姉妹都市丸亀市からのうどんの炊き出しボランティアが2日間来てくれました。2日間計13名でお手伝いをしました。
七尾市内	災害ボランティアに登録し、災害廃棄物処理運搬（軽トラ運転）、整理等のお手伝い（14日）防災士業務とは直接的ではありませんが
麻生町集会所	集会所に10人ほど避難に来ました
小牧地内	道路穴埋め（国道249号、県道長浦小牧線、市道等）神社家屋等の片付け、ボランティア団体拠点の協力（小牧集会所等）
大和町町内	町内見回り、災害状況確認、町会長へ安否確認の要請

令和6年能登半島地震において活動された内容（避難所以外）

主な活動場所	行った活動
小牧集会所	支援団体（ボランティア団体）活動の補助、物資の支援、配布
被災ゴミ等の一時仮置き場を設置し、週末にまとめて搬出した	
西三階町集会所	
避難所閉鎖後（1/31）後の町民への活動	要支援者及び住民への物資の配布。町民が集い、情報交換ができるよう、定期的なイベントの実施
町民全員・全家庭	町会役員と町民の安全確認及び被災状況の確認
西湊地区、小島町2丁目、小丸山小避難所	地区、町内の物資等の配布、管理（他NPOとの連携）、逆に〇〇ではあるが、西湊地区や小丸山小避難所を訪問し、被災者よりの相談支援
町内	市道の損傷（陥没）調査、町会への情報提供
町内	ため池の放水活動を行った。
	もち米の提供、うるち米は断られた
穴水町中居南集落	孤立集落となったが道路損壊状況の把握、土砂崩れの撤去、崩落道路での車両誘導、ケガ人の119番対応
七尾市内	友人、知人宅への飲料水、食料、ブルーシート等の配送支援を数多く行った。友人宅の公費解体協力をできる範囲内で数日行った。
避難所で避難者皆とともに共同作業をした	
深浦町会内	被災建物（住宅）などの補修活動
半浦町内	屋根修理等、シート張、道路補修、倒壊家屋からの救助等、町内窃盗盗難対策、見回り
半浦町内	被災状況の確認、町内の見回り活動
七尾市ボランティアセンター	各種活動3月・4月中に週2回、計10回程。被災建物内搬出物現地確認、他自治体（丸亀市等）からの応援者に対する現地案内等
七尾市管内	災害ボランティア（軽自動車トラック）、2月初めから3月末日まで（週2-3回）
外集会所	炊き出し支援
大田町地域全体避難所を巡回しました。	地域全体を視察し危険なところを指摘した。
	ブルーシートの配布

令和6年能登半島地震において活動された内容（避難所以外）

主な活動場所	行った活動
和倉地区、崎山地区、御祓地区、田鶴浜地区、各仮設住宅、七尾市ボランティアセンター	感染対策、物資等の配布、みまもり・声掛け支援、ボランティアセンター運営のお手伝い、ボランティアトラックの運転、ゴミ運搬などボランティア活動
中能登町	〇〇大使館からの支援物資配布。「〇〇」と一緒に物資など避難所に取りに来られない方の家へ物資、水をお届ける
矢田町ふれあいセンター	2024.3.30町会住民に300食の炊き出し、物資等の配布。2024.12.27-29町会住民にボランティアの方々と餅つき配布、もち米90kg使用
ミナクル	物資等の配布・管理
道へ倒れたブロックの撤去	古府町、万行町地内（2月以降）
町会	1人で暮らす老人の水くみ（毎日）、支援物資の配布と安全確認（声掛け）
町内全戸訪問、安否確認、被災困りごと、家族状況の聞き取りし、名簿作成	
輪島市	片付けのボランティア
災害ボランティアセンター	災害ボランティアコーディネーターとして、ボランティア派遣の事前調査をした
勤務先	一次、二次避難、炊き出し、地域住民の避難受入、復旧対応
本府中町地内	6年1月1日PM4:20、子、孫を安全を確かめ家に帰した後、班の人に声掛けし、高齢の人をサンライフへ、隣にアパート有、県外避難者もあり、避難所へ案内

令和6年能登半島地震において活動出来なかった理由

回答
仕事でライフラインの復旧をしていたため（水道）
七尾市職員としての公務があり防災士としての行動はできなかった。
公務としての災害対応のため
市役所職員としての業務を優先したため、避難所へは寝に帰るだけであった。職員の防災士として何ができるかフェーズを区切って整理したい。
市職員として発災後に対応しており、防災士としては活動していなかった
発災時から上下水道課で4月まで休みなく災害対応に従事していた
市職員のため（業務に専念していた）
建設会社勤務のため。1/2から災害復旧作業が休みなしで続き、仕事量が多く、それ以外でも被災した従業員のため食事や洗濯などのお世話をすることで心にもゆとりがなく、防災士としての活動ができなかった。ほんの少し、ご近所さんとの交流で食品などの物々交換したり井戸水の利用の声掛けをしたぐらい。
保育園、小学校が救援や休校となり、孫の世話をしなければならなかった
本来避難所は防災マップを作った時点において〇〇に指定しましたので、各自高台（〇〇）に避難するようにしたため。
市職員として震災対応をしなければならなかったため
夜間になったこともあり、外部の詳しい状況が把握できなかった。
自宅の破損のため活動できなかった
体調不良（身障）のため。地震時は入院中でした。
家族がインフルエンザで活動できなかった。家族が回復してからは設備工事、給水復旧など仕事の方に行っていたので活動できませんでした。
自施設内対応があったため他のところには行けなかった
自宅の応急修理等が必要だったこと、飲料水の確保等で余力がありませんでした
コミセンが避難所となった時点で日ごろの研修等の実体験の場と思い出向いたが「必要ない。手が欲しい時はこちらから連絡する」とのことで活動できなかった。その後全国ニュースで県内の避難所で活躍している方々の姿を見て「がんばってるなあ」と感動し、自分にももっと何かできたのでは、と感じた。
〇〇の事業所兼宿舍が被災したため、その対処に時間を要した

令和6年能登半島地震において活動出来なかった理由

回答
腰痛がひどく避難所運営は欠席させてもらった
町民の意識の変化→わがままになってきた。
行政の立場で災害対応に当たっていたため、防災士としての活動ができなかった。
担当地区住民の半分が避難所へ移動し、残りの人は自宅内で生活をしている状況であった。そのため、七尾市からの情報等が適格に伝えることが難しい状況であった。防災無線のみでは膨大な情報伝達に限界があることが分かった。
地区において防災士会の組織が無い。地区において活動できるリーダーがいなかった。地区において避難所運営の役割などの話し合いがなかった。情報共有がされていない。
高齢ではありますが、それなりに何かできるのではと思いましたが、避難所へはいかず（何とか1階で生活）に終わりましたので、何をしてよいか分かりませんでした。何かしらの連絡でもありかと待ちましたが、何もありませんでした。もう一つは両ひざの変形症で杖をつく夫（現在は手術し杖なしでOK）もまた揺れたらと思うと離れがたかったのもあります。
町会が何もしない！1人では限界があった!!
令和6年1月5日早朝に、親戚から電話があり「今何が必要ですか？」すぐに欲しいものを連絡しました。8日の夜中、「今から出発します。8日の11頃七尾に着きます」の返事がありました。地元の親戚に集合時間を連絡して受け入れの準備をしました8tユニック車1台と2tダンプで全員で5人来てくれました。道路が悪いのでまず8tユニック車の荷を〇〇におろし、次に消防署におろし車を広いところに駐車させました。残りの荷物を軽トラ2台に積み替え、一緒に2tダンプの荷を集会所におろし、8日の夕方帰路につきました。私たちは8日に種類分けをし、食糧品はその日に分けました。後の荷物は15日までにすべて終了しました。悪条件の中来てくれた5人の心意気を絶対忘れません。いくら感謝しても尽きません。ありがとう。1月中は町会長の任についていたので、町内の水路の擁壁崩壊箇所の陳情や特に交差点付近の空き家の倒壊状況の報告に、七尾市都市建築課や土木課に被害写真を添えて陳情に行きました。「水路の擁壁崩壊箇所は行けません」との返事があり、自分たちで近所の人の手を借り、仮に土嚢積みをして、これ以上の崩壊を防止しました。他の擁壁には突っ張り棒を配置しました。*搬入された支援物資の量が多すぎて他の場所での活動が中々できなかった（支援物資の内容飲料水10ℓタンク400個、毛布52枚、みかん30箱、ウエットシート1袋（60枚入）*20袋=1箱→15箱、ドライシャンプー150ml*36本入=1箱→10箱、災害簡易トイレ30セット、甘酒12束、押しずし・特産のお菓子等）ほかの避難所に引き取りを打診すると個人からの物資は受け取らないということで、全て当方で処理しました（七尾消防署、〇〇、3か所の防災倉庫）わが町内の人達、残りは手伝ってくれた親戚一同に配布しました。
避難所が体育館で、すでに活動者がおり、自宅の修理、仕事もあり、何をしてよいか分からなかった。
自宅のことで精いっぱいでした。

令和6年能登半島地震において活動出来なかった理由

回答
自身が土木会社に勤務しており、発災直後からインフラの被災状況調査並みに被災箇所の応急対応に従事したため
自分の家も半壊状態で、お正月で東京から息子家族が帰省していて3才の孫がおり、家族の事で精一杯でできなかった
市へ行っても数課回されることしばしば。進展、見通しが初めたたなかった。
自宅、実家ともに住まいの損壊が大きく、自分たちの生活だけで精いっぱい活動できなかった。
開設時からの方々が主導権を持ち進めていたため
職場（介護施設）の事業再開等を行っていた
仕事のため活動できなかった（高齢者施設勤務、施設利用者支援を1月末まで行った）
住家が半壊（中規模）し解体のため片づけなどで活動できなかった。
自宅が半壊・水道も電気も無く家族は車中泊状態。家屋根も雨漏りあり。壁が剥がれ落ち、床に刺さった状態。戸も割れ家の土台も地滑りした等々を片づけや掃除をして、すめるように毎日作業していた。自助で終わった。
活動したかったが、何をしたいかわからなかった
町会長として町内の農道、水路の補修、また職場の長として事業所の復旧に時間を取られていました
業務対応（地震保険などの対応）で活動出来なかった
地区、町会の防災組織に参加していない（防災委員ではない）
活動したかったが、何をしたいかわからなかった。七尾市外で被災し、自宅に戻れたのは地震の2日後であった。医療従事者で病院に泊まり込みで仕事をしていたため、体力的に避難所の運営まではできなかった。
高齢の家族の身の安全を考え、離れて活動出来なかった。町会長や役員の方々を差し置いて意見を言いづらかった。
要請が無かった（どこにも所属していないので協力要請が無かった→防災士の所属区分の明確化が必要）
職業が建設業（土木）のため、1/2より災害応急対応に当たっていた
被災した集会所が半壊以上のものがあり、活動したかったが活動できなかった
自身も被災し、まず家のことが第一であった。その後近くの避難所にボランティア目的も兼ねて伺ったが組織も出来上がって間に合っていて加わることができなかった。あとは何をしたいかわからないうちに仕事が始まって結局何もできなかった
防災士としてではなく、町会長（妻）として配達
地区には防災士会として組織はあるものの、会議等もなく、名前だけの組織に思える。将来的にはきちんとした組織にするとのこと。
勤務先が介護施設だったので勤務先を優先したので

令和6年能登半島地震において活動出来なかった理由

回答
体がいくつあっても足らなかった。水については1ヶ月ちょっとでなかった。町会長がコミセンから班長のところまで毎日持ってきてくれた。
金沢の家に避難。案内が無かった。
1月初め、町会で役員、防災士の皆さんが集まり相談をしましたが、具体的なことは決まらなかったのではないかと思います。
急なことなので何もできませんでした
自宅も被災しており、その片付けなどを行った
防災士は何人かいるが、実際に行動した事がなく、どうしてよいか分からなかった
小さな子供を持つ被災者の情報が無く手伝えなかった。断水で困っている町民に井戸の情報を伝えたかった→災害井戸への登録を（七尾市からの提言で）
業務多忙のため
特に何も行わなかった
会社や団体等の指示、社命により防災士となったが実際に活動するのはどうも… と思っている人は多いと思います。
両親を在宅介護のため、時間がなかった
金沢の子の家は全壊、親族も我が家に避難。高齢両親と家にいましたので、とても大変でした。
活動したかったが、何をしていたらいいかわからなかった
仕事もあり活動は困難であった
避難所開設にしても何をするにも市役所の職員に聞いてもgoが出るのが遅い。職員も上からの許可を待っているのだろうが、その時間が本当にムダ。
関係機関で防災士の名簿があり、連絡体制が出来ていると思います。今回の能登地震発生時1回も連絡が無かったので、自分自身で防災士の責任の基でできる範囲内で活動しました。今後はもっと連絡体制を強化して災害発生時の即戦力の強化策が必要だと思います。
特に活動しなかった。自宅も修理等あり心が動かなかった
築60年の自宅が倒壊し、100歳で要介護3の母を抱え、とにかく身内の安全が一番で、その日の夜から娘の所に避難したため
人員の確認（町民各家の確認）
被災家屋の跡片付け、防犯活動
大地震下で自宅、近くの実家が多大な被災をしており、生活そのものが窮地に陥っている、このような状況の中で活動そのものができない。
高齢者施設に働いており、そこでの対応のためできなかった。また、何をしていたらいいかわからなかった。

令和6年能登半島地震において活動出来なかった理由

回答
指定された避難所ではありませんでしたが、町民はまず地域の集会所に集まります。その支援はとても大切だと思いましたが、町会長はじめ町会の理事の方々はほとんど支援をしていただけませんでした。町会長は市役所OBのためか現在でも集会所は避難所ではないと言われます。そんな理屈より人命が大切だと思います。
コミセンに避難している人達に炊き出し支援を地域の人達と支援したいとお願いしたところ、コミセン事務局長が断りの電話があり1回目はあきらめました。再度炊き出しをしたいと思い連絡しましたが断られました。新型コロナウイルス感染症の理由でした。地域の住民が避難している気持ちを考えると差し入れせずにはいられなかったため差し入れが出来ませんでした。非常に残念、傾聴ボランティアの経験を活かし訪問しました。〇〇コミセンは町民の為に地域づくりであり、助け合う場所ではないでしょうか。
何をしていたか分からなかった
定期的に医療機関にて診察を受けて、不整脈があって心不全があって、療養生活を送っていました。体調にあったことに協同させていただきます。
活動したが、個人として動いただけで防災士としての連携は無く、地域の防災部会としての活動は少なかった
自分自身の避難及び自宅被害状況確認とできる範囲の後始末。単身の為、住家のできそうな対応を行っていたため。
町会での被害が確認できなかった（被害無のため）。特に活動出来ず。要請が他町会からでもあれば協力したかった。
土木工事の仕事をしているため仕事の方が大変だった
墓石の倒壊、仏間品の倒壊等、私にしかできない本業での支援者の応援で時間が無かった
防災士としての活動要請はありませんでした。
排泄（トイレ）の対応が不十分であった
活動はしたかったが、自分の生活もあり、仕事もあり活動する余裕が無かった。また避難所は避難者の家であり、たとえ防災士であっても簡単に入る場所ではなかった。遠慮もあるし入ってほしくもないだろうと思っていた。

回答
市職員や応援自治体職員、コミセン関係者が中心に運営に携わることは重要だが、避難者もできる範囲で一緒に携わることが重要である
今回の地震については、防災士になった目的に応じて活動したのではないと思う。時間の経過とともに立場も変わり目的も変わってくるのが想像できる。役割も変化するため定期的な調整が必要。
震災前の地域住民に対する防災教育・意識づけが不十分だったため、避難所は本来地域住民が主体となり運営すべきものであるのに、行政職員や施設管理者任せで自分はお客さん、手伝わず文句ばかりという避難者が大半であった。
町会で行ったが、時には市職員にも来てほしかった。当時議長だけをお招きして一言言ってもらっただけだった。市長部長等にも来てほしかった。
隣接する廃校となった〇〇小のプールはあったが使えなかった
衛生面や給水施設の大切なこと、情報の整理
県外から派遣のボランティア団体には色々なスキルを持って参加している人も多く作業内容によってはそれらの団体と地元がマッチングして実施できればもっと効率的にできたのではないか。
非常事態なのにみんな精力的に事を処理していたが、今後も予想されるので基本マニュアルの作成が急務と考える
行政からの情報が必ずしもタイムリーに届いていなかったように思われる。支援物資などについても避難者から提供していただくように協力依頼しながら炊き出しや飲料水確保やトイレ用水など確保した。（時間経過とともに提供いただけるようになった）高齢者から急病人が発生し、救急対応が混雑していたことから時間を要した（数日後病院で死亡）日ごろから充電等の資機材備蓄がなされており、十分対応できてよかった。避難所から停電により冷蔵庫が使用できないことから、生鮮食品の早期使用の申し出があり助けられた。損壊家屋対応に際しブルーシートの備蓄が少なく要求に十分対応できなかった（後日解消）。狭く混雑していたことからコロナへの対応が十分とはいえず、感染者の発生が見られた。
〇〇コミュニティへ物資をもらいに行くと、自分の分ではなく高齢の方が取りに来れないと説明しているのに、数を制限されたり、文句を言われた。数回言ってからもう行けなくなった。文句を言われるのが嫌で。
1日の夜から〇〇の娘宅に避難した。2月末まで。定期的（週一程度）地元に帰る。1月中は水を購入し地元に配布。
この時ほど、〇〇との防災協定のありがたさを感じました。避難所である〇〇では、温かい飲み物やパン、ケーキ等の非常食、そして多数の毛布等があり、もちろん石油ストーブ等があり、各避難者温かい一晩が過ごせた。
津波のため、高台に逃げる車で渋滞し出口のゲートを壊し、パーキングの駐車場に入れた。町会等にゲートのカギがあればスムーズにいったと思う。

令和6年能登半島地震における活動に関する課題や意見

回答
物資の配布に地区以外とか家族の人数による差別があった。折角行ったのにもらえない人もいた
以降も活動が出来ないため防災士を返上します。
自宅の方が心配で2日間だけしか活動できなかった
町会での自主防災対策に基づいて活動を行った
「防災士」としてネームを首にかけ支援物資を避難所に取りに来て高齢者の方に支援物資を配布されている女性がいました。パトリア4階に一般の方に配布されている（今の災害総合支援の場）に行きましたが、町会長、民生委員でないとダメだと断られました(情報がなかったため) 今となってもっともっとできたことがあったのではと後悔ばかりです。
津波警報で高台の小学校に避難してきた住民が（寒いから）早く学校に入れろ、トイレどこやと口々に言っていた。こんな時に誰が運営のリーダーシップをとるのか、その人は誰かわかるような服装、チョッキを着用していたらよかった。学校内の誘導にもだいぶ時間が経っていたと思う。
指定された避難所が倒壊したため機能しなかった。また避難経路も通過することが困難であった。
防災士会として組織立った活動がなかなか出来なかった。
コミセンの職員としては〇〇の方のご支援をいただきながら活動が出来たと思いますが、防災士としてはどうなのか疑問があります。自分自身も皆さんも被災者である中で、全く経験のないことをやるので、何をしたら良いのか分かることもなく、健康管理に注意しながら、出来る人が出来る時に出来ることを行い、支え合って3ヶ月間を乗りこえたと思います。
職場が〇〇地区の福祉施設勤務で、職場に出勤できる職員が不足していたため、勤務を優先せざるを得なかった。
LINEなどのコミュニケーションツールで情報が発信されて少しは把握できるようになったが、年配者などそのツールを使えない住人に情報を伝達することに苦労した。そこで地区内で結成している「壮年グループ」の共有LINEに情報を載せて、近所の方に情報を伝達する方法をとった。そのようなグループを地区内で結成するようなことを進めると良い（結成済みかもしれませんが）
・被害が甚大で被害状況の把握に多くの時間を要した。・行政は無力であり、業者の協力なしでは交通確保は不可能であることを痛感した。
協議会で避難所運営マニュアルを作成してあったのだが、実際災害が起きて実行できたかという、それぞれが被災者であり、集まることが出来ず、少人数で運営するしかできなかった。
ゴミ出しや簡易トイレ清掃当番を決めるにあたり、グループ分けやどんな風にしていくか？また当番対象者に集まって頂き決めたが、若い方、高齢者（健康な方）の方々の考え方の違いや、決めた時期、実際に行動してもらえない方などがいて協力者は決まった方ばかりとなり難しかった。ペット持参の方がルールを守ってもらえなかった。音の問題、要配慮支援など。盗難問題。痴呆症の方との関わり。

令和6年能登半島地震における活動に関する課題や意見

回答
自主防災組織の運営。地域づくりの運営（コミュニティセンター、町会、団体組織の協力ができていない）
避難所からの指示があれば活動が出来たと思う
ハザードの危険区域であったため、早く避難所を閉じたかった（〇〇が指定されていたが手狭であった）小規模のがけ崩れがあった。県土木に連絡し緊急時工事をお願いした。
避難者は受動的で少し自発的な行動がほしい。非常食は美味しくないとの不満が多かった。
防災士会として人数を集めて災害ボランティアにもっと参加できるようにしてほしい
普段からの備蓄や布団も無く、エアコンとストーブで暖をとったが、地域防災組織は全く機能できず、トイレの使用も水を汲んでこなければ流せず、様々な課題を露呈した
市の課同士、お互いの連携が取れているのかな？
避難場所が住民に行き届いているか、〇〇ではなく〇〇になっていることを知られていない。
仮設トイレの設置が遅かったように思う。使用の説明も張り紙だけだったため、不衛生な感があった
防災士の役割が明確になく、役所の職員から手伝い等の指示をしてほしかった。出すぎるからと思い遠慮があった。
各団体は防災士に対してもっと頼った方が円滑に物事を進めることができるのではないか
発災後しばらく、七尾市役所にて物資や水、ブルーシートなどの配布があったが、その時に1部屋にカップラーメン・オムツ等送られてきた物資が積んであった。欲しい物資があり、役所の方に尋ねると「欲しいものがあったら持って行って」と言って好きなだけ取り放題の無法地帯になっていた。せっかく頂いた物資なので、列に並んで配布してもらえる状況にしてほしかった。小さい子供や体の不自由な方、老人はやっと市役所に来てもなにも貰えずにガックリして帰る姿を毎日見ていた。何もしないで立っているだけの職員さんを上手く配置してほしかった。改善してほしい。
人数が多く、避難所の開設期間も長かったのでスタッフの負担が大きかったと感じた。コミセン独自の支援活動と外部からの支援が多くあって、調整など大変な部分もあったと思うが利用者にとっては恵まれた環境にあったと思う。
防災士、〇〇、〇〇や〇〇の役員でもあることから、何を優先的に対応すべきか迷う（避難支援も必要）
発災直後に対応できない物資は見直す必要あり（施設内に備蓄は必須）備蓄の優先順位の見直しが必要だと思います
〇〇に避難した町民がいたが、寒いとか〇〇がなぜ使えないのかと訴える人が多かった。〇〇に避難した家の方も何組かいた。水の問題、トイレの問題等。騒然としていてこの避難所より地元の集会所の避難所の方が格段にQOLが上だと思った。町会に要支援の方がいたが、〇〇への避難や自主避難をしていた老夫婦を〇〇の公的な避難所へ連れていけなかった。

令和6年能登半島地震における活動に関する課題や意見

回答
プッシュ型支援が主流となっていることもあり、物資は外部から多く入ってくるものの、スタッフの不足や高齢化による支援の負担増もあり、大変であった。また、道路状況も大変に厳しく、助けが必要な方の所にまで行くことが出来なかった。そのために活動内容が限られたものになってしまった。
ゴミ置き場までの時間がかかり苦労した。ゴミ集め場所が他にもほしかった
各町の防災担当を決めて、集会所を利用した防災訓練を行い、有事の際それぞれの役割分担が必要だと思う
自分も被害者であり、活動するには個人差がある。防災士は皆さんに認識が薄く、何をどこまですればよいか分からない。町会として組織が動きやすい。
町会（10軒）住民に支援物資をあげたくてもみんなの分をもらえなかった
1/3に〇〇へ行きました。「自分に何ができるか」と思いましたが、とりあえず避難所に行きました。その経験から行くときは2人から3人で行った方が良かったと思いました。個人でできることもあるとは思いますが、複数で行った方がやれることもあると思います。
期間は短かったがクオリティは高く、満足できる活動ができた
住民のほとんどが十分な寒さ対策をせずに、避難したため、屋外であり停電であったので、薪を燃やしたりしながら暖をとったが（一晩中）非常食の備蓄や避難用テント（横幕付）の備蓄が必要と感じた
とにかく水が大切だった。
いつ起こるか分からないから、事前に災害に備えること
行政（県、市）と地域ボランティア団体との連携が取れていないことが多々あった。ガレキ置き場の閉鎖が早すぎる
指定避難所の鍵を開ける人やタイミングの明示、自主避難所の把握や物資の提供
当初から自主避難所として運営せざるを得ない状況の中、地区内の防災士や行政の支援を受けられず、上記に記した避難所運営を1人で抱えてしまい、体調を崩した。なぜ、指定避難所とならなかったのか。指定避難所となるのに1週間以上もかかるのか説明もないままである。
次の大地震に備えて自主防災組織（町民の自発的な組織）を立ち上げたかったがうまくいかなかった。防災士を増やすことが早道だと思い、6名受験したが半数が落ちた。市の窓口に関し防災に関して熱意があり、市民を牽引できるスキルと知識がある人を配属してほしい（職員全員が資格をとる努力をする）
町会にある自主防災組織が活用できなかった

令和6年能登半島地震における活動に関する課題や意見

回答
いざという時の体制づくりや訓練が無かったので、非常時に全く役に立たなかった。避難所の運営管理を町連等で交代で泊り込む事を提案したがみんな自分が大事で誰一人協力してくれなかった。障がい者への避難所についての行政への協力が必要。七尾市についても常に後手後手で石川県も同じで、他県からの応援の方々に非常にお世話になり助かりました（七尾市も市長を含めもっと先頭に立って姿勢を見せるべきだ）各地区に必要な備蓄の管理が必要だった。※七尾市の対応が遅すぎ!!
1/2に水を取りに行ったが、1つの家屋にバケツ1つのみと言われ大変だった。10日に紙おむつを取りに行ったときに店で買えばあると言われたが、店に行っても売り切れでなかったのに大変残念なことです。
避難所に3日間過ごしたがトイレ等が不便であった。室温も寒くて大変だった。
1/1当日千人以上が避難されてきた人々の中に防災士は〇〇在住の方と私の2人だった。他にもいたはずだが把握の術が無かった。
市からの案内や連絡でしか行動できなかった。自主活動が難しい。
しばらくして落ち着いてから、家の中から新品の毛布や布団、洋服等を搬入しましたが、たまたまだったのか受け取ってくれる方がいなく（玄関フロアーに置いてきた）後で電話やLINEで連絡した
冬季災害のため、寒さ対策、灯油、発電機、トイレ（水の確保）、老人の対応、トイレ等
指定避難所では物資等が配布されていたが、自主避難所は配布等が行われなかった。指定でも自主でも開設している避難所には平等に配布等をしてほしい
ボランティア活動者と非ボランティア活動者との格差が見られた（トラックボランティア活動者と運転手ボランティア活動）活動方針の見直しにより、そのことの共有方法に、多くの問題点が見られた。
防災士として意見を言っても聞き入れてもらえなかった
コミセンからもらった保存食は賞味期限が過ぎていた。七尾市から〇〇地区の給水が全くなかった。役所に電話をしたが今後も給水の予定はないとの返答が反ってきた（他の地区はあったのに）
他の防災士との連携が全くない。防災士として市や町からの情報が入らない。何の権限も無い。町内の見回りなど単独でできない（町会長か民生委員と一緒にいった）。地域によって避難所運営、活動に差が見られた。
外国人住民に必要な情報が届かない。情報の壁と言語の壁を感じて、災害時に必要な情報を確保することは外国人にとって大きな課題と感じて、避難所での支援物資の配布、炊き出し情報等全て日本語で放送しており、外国人にとって理解しがたい難しさがありました。
避難所の調理室を何度言っても避難者らに開放せず使用しなかった。防災士が炊き出しやボランティア活動を要望しても断られた。断水で皆困っていたためWOTAの導入を交渉、提案するが断られた。防災部会に所属していても連絡も報告も相談も無かった。

令和 6 年能登半島地震における活動に関する課題や意見

回答

全く他町の防災士との連携が組めず、〇〇の方に任せた方が良かったと思います、以後入らなかった。入りづらく感じた。

コミセンと協力して出来たと思っている。活動前より町の運営組織に組み入れていた（防災部会）し、女性防災士会を立ち上げて、その中で研修や集会もしていた。それだからこそ出来たと思うので、防災士会設置より、まず地域の組織に属しての活動の方がいい。自分は女性会にも入っている
ので、防災士だけでは何もできなかったと思う。

防災士間の情報共有などを目的とした組織の設立に関するアンケート

A	B	C	D	E	F	Gその他	理由
		○					とりあえず自分の地域の連携を強めてからだと思う。
		○					会の設置する本来の目的を継続できる規模でまずはスタートでよいと考えるから
		○					協議会単位での活動が主となるため
○		○					防災の活動や災害対応は情報共有が重要であるから
		○					連携内容としては情報交換程度でいい。防災士個々の立ち位置（町会役員、福祉施設、行政職員、ボランティア等）があり、それによって目的が大きく異なると考えられる。各々のパーソナリティ（属性）の調査が必要
○		○					活動状況などについて情報共有するのは有意義だと思うため
○		○					地域ごとに人口、年齢、構成、課題や防災教育の進行も異なり、地区社協、民生委員、地域づくり等組織の連携体制も異なるため地域の防災は地域で考えていかなければならない。一方で行政としては現場の動きがや問題等も把握する必要があるし、地域で解決できない課題や防災教育、サポートも考えていく必要がある。
		○		○			県のフォローアップ研修にも参加したが「つながりができる」ところまでいかない。つながりや上位方向感ができるのなら研修会のようなものでもよい。しっかりとした会をつくるとなると労力がかかるし、担い手などの問題がでてくると思う。
○							防災部会（地域づくり協議会）で活動的であるところとそうでない所があり、とりまとめるところが必要
						防災士のためのコミュニティであるならば必要はないと思いますが、官民で形成できるのであれば良いグループ形成になると思います。	情報がここでしか収集できない点、方向性等が見えない点、役所が主となっていく場合が多いため、一体感が必要だと思います。
		○					防災士の整理が必要。名前だけの防災士はいらない。
				○			大きな枠での情報共有が必要なところ
○		○				必ず公開できるように。又リーダーはカリスマ性も必要と思う。	なかなか復旧にまで至らず心配しています。責任あることが妨げとなっていると思います。それを乗り越える強い人が必要です。
		○					自分の参加している防災部会以外のところでは、問題点も違ったものがあると思うので、いろんな事例を聞くことでまた知識・協力方法・対応能力の向上につながるのでは
○		○		○		当町において休業の宿泊施設は○○住民の受け入れ先としたが、この施設利用により地区全体として混乱は回避できた。	災害発生時、備品、消耗品の配備品を熟知している人の配備は混乱を回避可能と思考します。
○		○					現状の情報が入らない。町会地域づくり会長、防災部会長の役不足（対応力不足）が懸念される。防災士の立ち位置が不明瞭（指示、命令、活動内容等）
		○		○			
		○		○			広域になると細部まで行き届かないので、まずは地域の状況が分かる地域に会があるべき

A. 七尾市全体での防災士会が必要である。B. 七尾市全体での防災士会は必要ではない。C. 防災部会(各地域づくり協議会)間で横断的に連携を行う場や会が必要である。D. 防災部会(各地域づくり協議会)間で横断的に連携を行う場や会が必要ではない。E. 上記によらない会や場が必要である。F. 上記によらない会や場は必要ではない。G. その他

防災士間の情報共有などを目的とした組織の設立に関するアンケート

A	B	C	D	E	F	Gその他	理由
○							七尾市の各地域づくり協議会にそれぞれ防災部会もしくは自主防災組織がありますが、役員の交代等で実情は継続した活動が出来ていないので、地域づくり協議会毎に防災士会を設置して、その防災士会が連携して情報を共有することによって、七尾市全体の防災を構築するのが望ましいと考える。
				○			高齢者（70歳以上）が多く体力的にも難があり、できれば若年者を増やすべきと考える
○		○					全体的な防災減災に対する意識啓発は必要と考えられる（七尾市全体面積318km ² ）また、地域ごとに対応するテーマが異なる場合もあることから町会単位や分館単位での情報共有は極めて重要と考える。○○町では地域づくり協議会では範囲が広すぎる。○○以外の地域づくり協議会との対応が異なると考える。実際の防災対応は町会長の指示が原則となり、防災士といえども地区民に対する指示権限は保有していないと思われる。したがって町会組織機能のなかで防災士がどのように機能しているかが肝となる。今回の震災を通じて強く感じました。
				○			震災で皆が困っているのに、きちんと対応できない会や場を作る必要はない。きちんと対応できる人だけでやった方がいいと思う。
		○					防災士の活動意識もしくは意欲が高い地域づくり協議会の活動内容がモデルとなり、他の協議会に良い影響を与えることが出来ると考えるため。市全体の防災士会はそれ以降と考えるため。
○		○					組織等が無いと活動しづらいし、しなくなる。
○		○					各地域により状況が異なるので、幅広く連携が必要かと思う。情報を共にすることが必要と思う。
		○		○		道が寸断され、通行止め等のため、地区等に協議会等の設置	
○							七尾市全体で対応した方がいいと思う
○		○		○			避難所は知っているが意外と避難場所を知っている人が少なく、令和5年地区防災マップで調べたが多少問題があるかなと思う
○		○					横のつながりで知っている人たちがいたら協力しやすい。災害時は本当にマンパワーが必要だと感じました。
○							一部だけの情報では何もできないので七尾市全体の会があればよいと思います。
○		○					他の防災士の顔と名前を知っておきたい。どこで何が起きても対処できる人がいれば助かる。
○		○					定期的に近隣の防災士と顔が見える関係を作る機会があれば情報共有等しやすく活動しやすくなると思う
○		○					
○		○					情報収集と技術の習得の為にあった方がよく、参考になることがあるのではないかと考えるため
		○					地域防災士会がありますが、市内の他の防災士会との連携も必要であると思ったため

A. 七尾市全体での防災士会が必要である。B. 七尾市全体での防災士会は必要ではない。C. 防災部会(各地域づくり協議会)間で横断的に連携を行う場や会が必要である。D. 防災部会(各地域づくり協議会)間で横断的に連携を行う場や会が必要ではない。E. 上記によらない会や場が必要である。F. 上記によらない会や場は必要ではない。G. その他

防災士間の情報共有などを目的とした組織の設立に関するアンケート

A	B	C	D	E	F	Gその他	理由
☐							七尾市又は地域代表を決めて連絡網を作る。連合会長より連絡が来ると思っていたが無かった。自分で自主的に参加するのかわからなかった。
☐		☐				町内での活動がとても大事！残念ながら町会長、民生委員が不在の町内で避難所から配布された？物資も集会所へ取りに行けなかった高齢者がいたり、集会所に放置されたままになっていて残念で悔しかった。	何をするにも「町会長や民生委員でないから」と支援物資がもらえず町内には不在だからと事情を説明し、他の町会長から情報をいただき、〇〇に何度か出向き、支援物資をいただき、町内の高齢者に配布したり、他の町会長から教えていただいた情報を毎回30軒手書きで準備し配布しましたが、もっともっともっと出来ることがあったはずと後悔ばかりです。
	☐						小規模での活動の方がまとまりやすいのではないかな
	☐				☐		地区別の実態に応じた取り組みが必要かと思う。七尾市全体で同じ（統一した）取り組みは地区部会の大小、強弱があり難しいのではないかな。
☐							
☐		☐					
☐							地区により取り組みに濃淡があるから、先進的な取り組みがあれば共有させていただきたいから
					☐		平時では連携は可能だが、災害発生時は他に気が回らない。実際、地域づくり協議会から支援のアクションが無かったし他地域へ問い合わせをしなかった。家が全壊・半壊以上となって。皆、これから先どう生きるかしか考えられなかった。
			☐				職場で取得された方もおいでるので地域でまとめるのは難しいのでは。七尾市で必要があれば会の設置に反対はありません。
				☐			現在は、各自主防災組織等や地域づくり協議会の防災部会に体制の違いがあると感じており、各組織の更なる強化が喫緊の課題であると認識している。したがって、現時点で「連合会的意味合いでの市全体の防災士会」を設置する必要はないのではないかと考える。ただし、防災士の資格を持っても具体的な活動が分からない方や、有資格者を活用できていない自主防災組織等が一定程度あると推測するので、そういった方や組織のため、また、各防災士や組織が連携する必要はあると思うので、まずは定期的に情報共有を図る（情報提供をする）ための場を設ければよいと思う。
☐		☐					今回の能登半島地震は今までに経験していない現象であることは、皆共通認識として心の中にあると思います。まだ動いていない活断層があり今後も大きな災害の発生が奇遇されます。この経験をした今、災害に対する気構えを住民に抱かせる必要がある。「災害時に誰かが助けてくれる」という考えを変えさせ、自分の命は自分で守る意識を浸透させる必要がある。それは日ごろからの意識改革によるものではないかと思っています。
				☐			自分自身も感じることであるが防災士の資格を得ても、実際の災害時に的確な行動をとれるかは疑問である。部会において防災士の方々が集っているが、自身の意思で参加している方は少ない印象で志が高いとは言い難い。災害時の自分の身の回りの状況にもよるが、有事の際も実働が可能で、志が高い方の組織化が必要であると感じる。

A. 七尾市全体での防災士会が必要である。B. 七尾市全体での防災士会は必要ではない。C. 防災部会(各地域づくり協議会)間で横断的に連携を行う場や会が必要である。D. 防災部会(各地域づくり協議会)間で横断的に連携を行う場や会が必要ではない。E. 上記によらない会や場が必要である。F. 上記によらない会や場は必要ではない。G. その他

防災士間の情報共有などを目的とした組織の設立に関するアンケート

A	B	C	D	E	F	Gその他	理由
☐		☐					防災士の地位が確定してなくて、実際どのように動いたら分からない人が多々いたように思う
☐		☐		☐		防災士の組織がしっかりしているところは市民の意識も高く、研修はもとより訓練等も繰り返されているため、いざ有事の時の行動や判断がスムーズに行われ命を守ること第一に様々な協力体制や支援体制で迷わず動けるのではと思う。新潟県のある市では市役所の中に危機管理監がいて、防災士と直結し防災士は町会長を補佐しているポストであるところもありました。	市内においてもそれぞれ地域の特性が違うのと同様に意識の持ち方、訓練、研修等の差が生じ、基本的なこと、ある程度は情報共有や情報交換を通じて足並みをそろえることも大切なのではと思える。他県や県内の他所の様子を情報交換しお聞きすると、中越地震、東北震災等の地域では市の中に危機管理監の下に、例えば七尾にも数年おられた自衛隊所長（防災士）が中心となり、あちこちで防災士対象、町民対象の研修を行う等、防災意識を付け、向上に貢献され、県民の意識も高まってきた事を聞きますと、七尾は遅れていると思います。
☐		☐					リーダー的な人が必要。防災士としての知識・経験を得られる場が必要・七尾市として防災士を育てていくことが必要
☐				☐			市内でも地域により被害状況等違うこともあれば、同様なこともあるので情報を共有し、補い合うためには、市全体での防災士会は必要と思う。各地域づくり協議会で連携をはかるには現状ではつながりは希薄のような気がするので、防災以外でもつながりが密になるような策を同時に行うなら必要と思う。
☐		☐					
☐		☐					ピラミッド型で各地区の防災部会を統一して、横断的に連携することは大事です。
☐		☐		☐			今回の災害では連携した活動が見られなかった。個々で動くのみだったと思う。
☐		☐					市内の防災士のつながりがあっても良いと思う
☐		☐		☐			
	☐	☐					組織が大きくなっても各地域が直面する問題はさまざまであり、できるだけ早く対応できるような時間的、空間的に隣接関係のある地域での対応が情報も共有されやすい
☐				☐			相互の情報共有、各地域での取り組み紹介、良いところを今後の減災に！
☐		☐					地元のコミュニティでの防災士グループ（コミセン）があり、地区の顔は分かっても市となると全く分からないし、こんな大きな災害にはあってもいいかと
☐		☐					防災士が単独で活動できるのは所属町会の防災活動レベルであり、より活動の幅を広げる為には地域単位の組織を立ち上げ、情報共有や防災士のスキルUPを図る必要がある（〇〇地域では防災士会を立ち上げ活動している）地域横断的な連携にはコーディネーター役が必要であるので、七尾市全体の組織も必要と思う。
☐		☐					
☐		☐					〇〇町に防災士会はありますが、全体での活動は年々減少していると思うので、地域づくり協議会と協力できるようになると活動の輪も広がると思うため。市全体で情報の共有ができるとありがたい。

A. 七尾市全体での防災士会が必要である。B. 七尾市全体での防災士会は必要ではない。C. 防災部会(各地域づくり協議会)間で横断的に連携を行う場や会が必要である。D. 防災部会(各地域づくり協議会)間で横断的に連携を行う場や会が必要ではない。E. 上記によらない会や場が必要である。F. 上記によらない会や場は必要ではない。G. その他

防災士間の情報共有などを目的とした組織の設立に関するアンケート

A	B	C	D	E	F	Gその他	理由
	○		○		○		いざという時の場合の防災士独自のものであってほしい！どれだけ形だけの組織化、流れをもっていても役に立たなかった。
		○					明確でない、組織等
		○					各地域ごとに違った側面があると思う。他の地域でどんなことをし、どんなことが役に立ち、どんな反省点があるかなどを知る機会になると思う
○		○				地域によって活動内容に差があったと思うから	
				○			現在、○○地区まちづくり協議会防災部会は微力ながら地域住民への地域防災力を高めるべく、年4回の防災部会員の全体会（防災情報の共有等）・地域一斉防災避難訓練・防災講習会（対象者＝地域町会長・民生児童委員・防災士取得者・子供会等）の実施・地域諸行事毎時の防災ブース設置・防災フェアの実施・防災施設の視察研修・出前防災講座（地元老人会、婦人会）等を実施している。前記の実施している諸防災行事は十分とは言えませんが、更に「ためになったと実感できる講座等」の実施を期待
		○		○			各地域で防災知識があれば急を要する対応に速やかに進行するのではと思ったため。地区ごとに問題点が異なり、常に知っておくには情報が錯綜しやすいため
○		○					防災士としての役割が明確になり、市職員との連携が図られる
							災害時の地域間での防災士の役割分担が不透明。情報共有による活動の活発化。
○		○					加賀方面は活動が活発でボランティアに参加する方も多く、勉強会もあり知識もある。能登方面でも勉強会やスキルのある方を育てていけば災害時にリーダーシップを発揮できて良いと思います。
○							やはり、旧七尾市、旧鹿島郡の温度差を考えないといけない
	○	○					
○		○					震災の時、防災士としてどこに行けばよいのか？（人が足りない場所等）の情報をどうやって収集すれば良いか分からなかったため
○		○					防災士は町内での人数も限られており、多地域での活動状況などの情報共有ができればよい。
○		○					防災士間のネットワーク形成が重要であるが、有事の際スムーズに連携できるか。個々の立場、役職等で連携できないことも想定する必要があると思う。平日の日中は仕事（会社員）もしており、突発的な事態には対応できないかも
○							個々のスキルアップ研修だけでは動けない（連携が必要だから）地域によって環境が違うため学ぶだけでなくアウトプットも必要
○		○					
○							情報の共有が必要。防災士の質の向上、役割の明確化を行う組織づくり
		○					現段階で組織の運営費はどうするか見通しが無い

A. 七尾市全体での防災士会が必要である。B. 七尾市全体での防災士会は必要ではない。C. 防災部会(各地域づくり協議会)間で横断的に連携を行う場や会が必要である。D. 防災部会(各地域づくり協議会)間で横断的に連携を行う場や会が必要ではない。E. 上記によらない会や場が必要である。F. 上記によらない会や場は必要ではない。G. その他

防災士間の情報共有などを目的とした組織の設立に関するアンケート

A	B	C	D	E	F	Gその他	理由
	☐	☐					今回のような大きな災害では他町まで考える余裕がないのでは
☐		☐					防災士として、地域における減災や日頃より防災を考えていくリーダーとしての役割を担うため
		☐					防災士としてのある程度知識人として参加できるから
				☐		Zoomなどオンラインでの学びや市外、県内、全国といった幅広い地域連携が必要	今回の能登半島地震において、支え、助けていただいたのは七尾市外や県外の団体など被災地以外の方々でしたので、被災地が深刻な状況にある時は、地域の部会は機能しにくいと思いますので、全国とつながるネットワークがあればよいと思いました。
☐		☐				七尾市でも防災士が多くいますが、ほとんどの人が活動していない。市で登録されているのにもっと呼びかけをし活動してほしい。	私は〇〇地区です。地区では20人以上いますが、何人かしか活動していません。地区でも呼掛けしますが、七尾市からも発信の七尾市防災部会を設立してください。
		☐					地域の部会は年1回のみであり、具体的な動きが分からない。災害時の活動は誰もすぐにできないので、日常より出来ることを考え、地域に広げていくことが必要と思います。
☐							七尾市全体での協力体制が必要と思います。
☐							
		☐					七尾市全体での研修会や講習会があれば参加すれば良いし避難所運営等は地区ごとになるので、情報、連携があればそれでよいと思います
☐		☐				七尾市全体での枠組みに縛られずに県防災士会と緊密に連携協力を行う協議会の設置を求めたい	防災士として今後も地域の防災力を担い、防災に関する幅広い知識・技能を持ち、防災リーダーとして総合的に活動していく上で組織の設置は有効である。七尾市全体で統制が図られ、意識付けにつながる。（県内の先進的市町村をモデルとした組織を早期に発足することにより）
☐		☐		☐		子ども達にも災害時の活動を伝えたい	備蓄などは市が行い、避難所運営や炊き出し支援ができるよう物品を実際に使ったイベントや研修を防災部会が行い、小学校やこども園などでも防災体験を行ってはどうか。
☐			☐				
		☐					地域に密着した、小回りの利く、小さな集団の方が急な災害対応ができる
		☐				各町の長や集会所のカギを持っている方を中心とした（代表）方が防災部会に所属するべきと思う	日ごろから情報共有があると思う。物資の配布、水の確保、支援会場に行っても終了しましたという事が何度もあったから（井戸水情報など）
☐		☐				地区防災部会では指示、指令が明確にできないので市の指示として（市全体として）の立場は必要	市の要請と作業区分指示が必要「よかったら参加して」ではダメ
	☐	☐					
		☐					地域により被害状況や住んでいる年齢層も違い、必要とする支援が異なる
		☐					七尾市全体ではなく事前の防災対策発生時の応急対応など各町地域がすぐ行動できる会が必要では

A. 七尾市全体での防災士会が必要である。B. 七尾市全体での防災士会は必要ではない。C. 防災部会(各地域づくり協議会)間で横断的に連携を行う場や会が必要である。D. 防災部会(各地域づくり協議会)間で横断的に連携を行う場や会が必要ではない。E. 上記によらない会や場が必要である。F. 上記によらない会や場は必要ではない。G. その他

防災士間の情報共有などを目的とした組織の設立に関するアンケート

A	B	C	D	E	F	Gその他	理由
○		○					〇〇に防災士会があったが会費を出してまで参加したくなかった。公費（地域づくり）で運営してくれるなら勉強したい
○		○					以前、地域づくり協議会の防災防犯部会の場合にて、市において防災士会を作ること聞いたため
○							昨年の地震に際し思いました。
○						〇〇町防災士会会員として活動	A他町（輪島市、能登町）の情報が入っていて、七尾市はそのレベルに至っていないと考えるため
○							各防災士が互いに情報共有し、親睦を深めるとともに、スキルアップを図りながら地域づくり協議会や町会連合会と連携し、全市民により一層、防災・減災意識の向上を図っていくためには行政の支援を受けて活動できる組織の設立が必要と思われる
○							災害の時は地区も地域も全体が見える事で防災士も住民と一緒に行動や活動が出来ると思うから
○						地域による防災活動は限りがありますが、地域の人との交流により、お互いの安否を確認できる体制は不可欠だと思う	防災に関する日ごろの意識が無い場合が多くみられます。家の中の危険や耐震に関する危機をもって地域での重要性を話し合う機会が増えると良いと思います。
						他町の防災・減災を考える余裕はない。自分の地区のことでいっぱい。地区防災士会は29名で状況報告、活動、訓練等を実施。また、コミセン内で生活安全部会（防犯、交通、防災、消防）で防災士会と合同で活動	地区によって状況が違うので、自分の所でいっぱい防災、減災は各地区で合ったことを考えていく。〇〇地区は津波の到達は考えにくい？山崩れ、土砂崩れは十分にある。
○		○					まずは身内から
○		○					
						「支援物資を出し惜しみしているのではないか」といった怒号に近いような意見がありました。物資がまんべんなく必要な人にいきわたっていないと感じ辛く感じました。	
		○		○			今回の地震でたとえ集会所等に避難しても備蓄品には限りがあり、よそからの支援物資が届くのもすぐではないことを初めて知った人も多いと思う。市民一人ひとりが防災について考え、備えるといった意識を持つことが大事だと考えるため。
						Cに近いが防災士等の連携というよりも、もっと実務的なものが 必要。ボランティア団体の連携等	偉い人ばかりたくさんいて動かない（口だけの）人が多くなって困る。実務者が必要。
○		○					R6年1月の災害を体験し、しっかりとした組織が必要であると感じた

A. 七尾市全体での防災士会が必要である。B. 七尾市全体での防災士会は必要ではない。C. 防災部会(各地域づくり協議会)間で横断的に連携を行う場や会が必要である。D. 防災部会(各地域づくり協議会)間で横断的に連携を行う場や会が必要ではない。E. 上記によらない会や場が必要である。F. 上記によらない会や場は必要ではない。G. その他

防災士間の情報共有などを目的とした組織の設立に関するアンケート

A	B	C	D	E	F	Gその他	理由
○		○		○			必要だとは思うが、実際防災士の資格者が防災士としての意識が無いままの人が多い。スキルアップ研修も必須ではなく、防災士として何をすればいいのかの意識もなく、町会長が言うから受けたという人があまりにも多すぎる。会の組織づくりは大事だとは思うが、同じメンバーばかり集まりそうで、活動につながるか、あまり期待できない。推薦した町会の意識づけも併せて必要である。
○		○					七尾市が中心となって広報すべきである
		○				防災部会では講習会などに参加したが、今回の地震では被災者となり活動できなかった	
○		○					自分の町の活動も大切だが、各地区の活動も参考にした方がよいと思ったから
○		○		○		当町には「女性防災士会」が任意で活動していて、今回の震災でも日ごろから学んでいたことが大いに役に立った。行政からの団体だけでなく、自主的に日ごろから学習する集まりは必須だと思います。	「行政が何もしてくれない！対応が遅い！」というばかりで自ら動かないのでは自分も町も守れない。行政も大切だが、体制が整うまで自分たちで協力しあえる組織を自分の頭で考えるべきであると思います（特に避難所運営では女性リーダーの育成が大事である（行政も民間も）
		○					活動の先進事例となる地域を見習うため
○		○					現実の問題を防災士会としてどう対処するかの情報が必要
○							避難所運営では、統制的立場の人が必要だと思います。ただ、高圧的にならないようにしないといけないと思う。怒号、叱責など。（実際そういった現場を見たし聞いたこともあります。委縮していた周囲の人達が印象に残っています。）
		○					市全体では規模が大きすぎる
○		○					公助待ちでは時間がかかりすぎる。まず素早く共助を行う体制づくりが必要
○		○					令和6年能登半島地震の七尾市内各地の避難所運営がどんなだったか知りたい。検証したい。
						分からない	災害対応は自治体、自治会が中心となる中で、新たな組織の必要性を問われるとイメージが沸かない（情報共有して何をするのか）
		○					市→各地域づくり協議会→各町会と考えれば、統一性のあるマニュアルを準備、また組織化も必要と思う。12月市議会にあった防災スペシャリスト養成→早急に配置すべき
○							今回の災害で本当に必要事項を上げたらいいかと
○							防災士個人として何をしたら良いのか分からないので会があれば活動しやすい
○		○					情報の共有は絶対に必要である。
					○		〇〇町にも防災士会はあるようだが、どんな活動をしているかも不明。会費とかとられることが嫌だ。会があっても結局は毎回同じ話だったり発展が見込めない。それならば個々それぞれが研修などに参加してスキルを磨き、有事の際に発揮できればいいと思う。日ごろの顔の見える関係づくりをしなくても有事の際は一致団結できた。

A. 七尾市全体での防災士会が必要である。B. 七尾市全体での防災士会は必要ではない。C. 防災部会(各地域づくり協議会)間で横断的に連携を行う場や会が必要である。D. 防災部会(各地域づくり協議会)間で横断的に連携を行う場や会は必要ではない。E. 上記によらない会や場が必要である。F. 上記によらない会や場は必要ではない。G. その他

防災士間の情報共有などを目的とした組織の設立に関するアンケート

A	B	C	D	E	F	Gその他	理由
○		○		○		やらないよりやった方が良い。防災ボランティア、学生との連携、仲を取り持つ行政との連携	今後も必ずあるであろう災害対策として必要、何らかの人脈を持つことで助け合える、スキルアップにつながる。個人での活動には限りがある。頼るべき先を周知させる必要がある。
○		○		○		七尾市防災会が無かったので〇〇町自主防災組織を立ち上げ12年間責任者として活動しました。年齢的に町会役員、退任と同時に若いメンバーに防災責任者を引継ぎし現在に至っております。	防災部会の相互協力体制をコントロールするためにも当然七尾市全体の防災部会が必要である。今までなかったことが不思議です。私が認定時（2008.12.22）の17年前に設立の話がありましたが、立ち消えになったようです。
		○					防災士となり期間が長い間活動していないので、自信がありません。
○							市、県として防災士として体系的な行動や活動ができていない
		○					各地区まちづくり協議会等その地区ごとの活動の方が。例えば私たち〇〇町には「〇〇町女性防災士会」が設立されており、いろいろな活動、勉強会等実施していました。
		○					
○		○		○			あるに越したことは無い。集落のまとまりが無いといけません。連携が無いと対応が出来ないと思います。
		○				地区ごとでの連携を行う場や会が必要である	その地域ごとに状況も違うので市全体の防災士会は必要ない
○		○					近隣組織（大小町会）との情報交換が必要
○							
		○					七尾市全体では地区の代表で組織すれば良いと思います
				○			その土地に必要な援助は違うと思うので、お互いに情報共有すれば良いと思う
○		○					災害が生じた場合、一人ではほとんど何もできません。しかし防災士会の連携ができると情報共有、対応の仕方、炊き出し支援など相互協力が可能になります。
○		○					
○							七尾市防災士間で情報共有が必要だと思う。
○		○					連絡をいただいて、出席が叶えば参加させてください。
○		○					
○		○					他市町には防災士会が団体としてあり、団体として活動し、金銭面でも支援をいただき、活動費に充てている。災害時だけでなく、日ごろから行政・社協と連携をとり、情報を共有し活動している（他のところでは）。有事の際、最大限に市内の防災士を活用できる。（地域の防災の為に、補助を出して取得している資格なのだから、300名以上の防災士を活用すべき）
						七尾市全体の防災部会の把握。有事の際の七尾市担当部署からの防災部会の状況把握と早期対応体制の構築	
		○					前項目1-3による

A. 七尾市全体での防災士会が必要である。B. 七尾市全体での防災士会は必要ではない。C. 防災部会(各地域づくり協議会)間で横断的に連携を行う場や会が必要である。D. 防災部会(各地域づくり協議会)間で横断的に連携を行う場や会が必要ではない。E. 上記によらない会や場が必要である。F. 上記によらない会や場は必要ではない。G. その他

防災士間の情報共有などを目的とした組織の設立に関するアンケート

A	B	C	D	E	F	Gその他	理由
☐							情報共有の為
☐							各地域の防災部会は防災士の活動方針について考え方にかなりの差が生じている。地域に任せることも大事だが、防災士1人1人が本来の役割を果たす活動が出来るように地域差を解消するため、市全体での会が必要である。
☐							今から考える問題ではなく、もっと以前に考えることではないですか？〇〇地区では防災部会はとっくに動いています。地震が起きたので強く思います。
		☐					
☐		☐		☐			
☐		☐		☐			初日の防災士同士のつながりも無く、以後の連携も難しそうに感じた。日頃より意思疎通が必要と感じた。
	☐		☐				自主ボランティアで集まる
☐		☐					選択幅が少ない
				☐			何かあったら目の前の事しか分からなくなるが、もう少し広い範囲での情報や情報共有できればと思ったため
	☐	☐					市からの物資配布は地域づくり協議会（コミセン）なので、属していないと配布もないし情報も降りてこない
		☐					大きい組織より地域単位程度が効率も良く活動しやすいのではないかな。
☐							減災防災における工事関係の対応
☐							
☐							活動をやりたい人はたぶんたくさんいたと思うが、何をやれば何をできるか分からなかった。リーダー的な人がいて、具体的に活動内容が分かれば活動しやすくなるのではないかと思います。個人の活動は難しいと思いました。

99 9 108 4 30 4

25

A. 七尾市全体での防災士会が必要である。B. 七尾市全体での防災士会は必要ではない。C. 防災部会(各地域づくり協議会)間で横断的に連携を行う場や会が必要である。D. 防災部会(各地域づくり協議会)間で横断的に連携を行う場や会は必要ではない。E. 上記によらない会や場が必要である。F. 上記によらない会や場は必要ではない。G. その他

七尾市全体の防災士会としてどのような組織形態を想定しているか（防災士間の情報共有などを目的とした組織の設立に関するアンケートでAと答えた方のみ回答）

回答	回答の理由
A	
B	各地区から義務感で選出され、中身の薄い会議をするくらいなら、熱意のある人達を集め、建設的な議論を交わした方が良い。
A	
A	
A	その他国や県、弁護士が参加です。
A	災害はどの時間帯に発生するか予測できない。どの時間帯でも動くことが可能なメンバー編成をしなければならない（属性維持）
A	防災士会は七尾市災害本部の中に位置し本部情報を共有し各地区の活動に生かす。
C	七尾市の地域づくり協議会の中にすでに防災士会を設置しているところがあり、まず先行してこれらを連携する仕組みを検討し、徐々に設置したところから組み込んで将来的には七尾市全体の連合体を構築する
A	全体的な防災・減災に対する意識啓発や石川県や七尾市における防災施策の周知など比較的広範囲での防災対応。その下部において実戦部隊としての組織を町会単位or地域づくり協議会や地域協議会単位での組織があれば機能的と考える。
A	
A	
B	
B	それなりに責任があるから、長くかかわることが大事で地域に詳しい人にリーダーになってほしい
B	
B	
A	
A	
A	
C	出席できる方はできるだけ参加してもらった方が参考事案が出て役立つのではないかと思います。
A	
A	
A	
A	

A. 各地区の代表者により組織する形態 B. 希望者で組織する団体 C. その他

七尾市全体の防災士会としてどのような組織形態を想定しているか（防災士間の情報共有などを目的とした組織の設立に関するアンケートでAと答えた方のみ回答）

回答	回答の理由
A	
A+C	防災士は特別な役割をする人と決めつけしないで、地区住民のある年齢以上の方が防災士（準防災士）として動けるようにする、今地区に住んでいる中心となる若い方のつながりを深めるような雰囲気を高められればいいなと思います。
C	七尾市に在住する全ての防災士が加入すべき
B	〇〇・〇〇地区においては地域づくり協議会の中に防災・防犯部会がありますが、コミセンが中心となり、また、部長、副部長共に自治消防団で防災士ではありません。防災士の立ち位置が分かっていなく、なかなか難しいと考えます。代表者となると部長、副部長の参加になるので、他の地域の様に防災士出席となる会の形態が良いと思います。
A	
A+B	若者ばかりでも年寄りばかりでもよくないと思う
A	
C	地域づくり協議会の防災部会は構成メンバーを見てみると郵便局関係の人が多く参加しております。これからは各町会の人達が参加する組織になれば良いと思います。女性の方の参加が、これからの活動強化の為に必要不可欠だと感じます。
A	
B	
B	
C	Aが望ましいが、Aだけだと代表になる人が色々な職も兼ねている場合もあり、Bの希望者も意欲があるのでメンバーに加えた方が良く思う。
A	
A	
A	
A	
A	
A	
A	
A+B	A+Bが良いのでは
A	

A. 各地区の代表者により組織する形態 B. 希望者で組織する団体 C. その他

七尾市全体の防災士会としてどのような組織形態を想定しているか（防災士間の情報共有などを目的とした組織の設立に関するアンケートでAと答えた方のみ回答）

回答	回答の理由
B	
B	
A	
B	
A	
A	
A	
B	形だけの団体ではなく、行動する団体組織にしてほしい。
A	
A	
C	市内在住の資格を有する者及び有識者、施設の管理責任者を対象に構成される第三者機関組織とする形態が望ましい。防災、減災について様々な視点で意見を交わす機会を定期的を実施する方針
A+B	各地区の代表者により組織する形態に希望者も参加できる団体
C	七尾市全体の防災士会としての組織が情報共有するために必要
C	（参加可能な）防災士全員の役割分担の組織。地区に区分してはダメ。全員で分担して作業にあたることが大切。
A	
A	
A	
A	
A	
A	県防災士会及び県内の先進市町を参考にしながら、市内各地の地理的条件も違うため、市全体を網羅する体制での代表で組織するのが望ましい
B	
A	
A	〇〇地区防災士会会長：〇〇が他地区の防災士会代表と意見交換を年に1-2回実施する

A. 各地区の代表者により組織する形態 B. 希望者で組織する団体 C. その他

七尾市全体の防災士会としてどのような組織形態を想定しているか（防災士間の情報共有などを目的とした組織の設立に関するアンケートでAと答えた方のみ回答）

回答	回答の理由
B	やる気が無いといけない
A	
B	
A	
A	
A	各地区の代表者を何人か参加し、その後は地区で繰り返し学習会をする
A+B	現存の各地区の自主防災組織は、あて職が多く、被災をしてしまうと一瞬でその体系は崩れました。町の要職に付く人たちは他の活動も一斉にしなくてはいけないため、防災のためだけに動くのは無理だと思います。自衛消防のように平常時から訓練をするには、他の要職を持つ人ではなく、防災のみに専念できるのが望ましいと思います。
B	
B	
C	各地区の代表者、NPO団体の代表、七尾市議の代表、七尾市防災交通課
A	
C	参加したくても家のことでできないことはある
B	
A	
B	
C	レベル分けて実働できる組織、実働できないがやる気、関心はあるメンバー組（例：仕事等）、やる気も体力もないもの
A	
A	
B	
A+B	皆が集まれる携帯にするように。代表者、希望者だけはダメです。
A	
C	各地区の有資格者による組織
B	

A. 各地区の代表者により組織する形態 B. 希望者で組織する団体 C. その他

七尾市全体の防災士会としてどのような組織形態を想定しているか（防災士間の情報共有などを目的とした組織の設立に関するアンケートでAと答えた方のみ回答）

回答	回答の理由
A	
B	
A	
A	
B	
B	
A	
B	
B	
B	
B	
B	
B	
A	
A	
A	

A. 各地区の代表者により組織する形態 B. 希望者で組織する団体 C. その他

防災士間の情報共有などを目的とした組織の設立に関するアンケートにおいて、A又はCと回答された方への質問

回答	備考
2	他の活動で忙しいため
1	
2	
1	
1	
1	
2	防災士は資格取得時や研修において災害対策だけでなく、その後の復旧、復興についても過去の事例や知識を持っているため、復興に関する契約か会議にも関与してもらうのが良い。
1	
1	
1	
1.2	
1	
1	
1	
1	
	七尾市の地域づくり協議会の防災部会の中に防災士会を組織する事で、全市的に他の防災士会との情報共有を可能とする。
1	ただし個人的には年齢的にハンディーから困難となるかも
2	
1	
1	
2	
1	
1	
1	

1. 七尾市全体での防災士会、もしくは防災部会の連携を行う場が設置された場合は参加する。
2. 七尾市全体での防災士会、もしくは防災部会の連携を行う場が設置されても参加しない。

防災士間の情報共有などを目的とした組織の設立に関するアンケートにおいて、A又はCと回答された方への質問

回答	備考
1	
1	
1	
1	
1	
1	
1	
2	
1	
1	
1	自分が住んでいる地区内の災害の発生が危惧される場所、必要な備品などを抽出しまとめる、行政にその対策を強く要望できる組織（受け身側の組織ではよくない）として運営できるようにする。
1	今回の地震で私は防災士としてではなく、災害ボランティアコーディネーターとして、災害ボランティアセンターに2月から10月まで活動して、それ以降は〇〇で活動して現在に至っています。活動する中で全国各地からたくさんの方がボランティアで七尾を訪れていただきました。ほんとうに感謝しかありません。また、防災士も私と同じようにセンターに入り活動している方もいらっしゃいましたが、その方たちはほとんどが市外、白山市、小松市とかの方でした。七尾市在住の防災士もチラホラといらっしゃいましたが、大半の方はどこでどのように活動していいか分からないというのが現状です。私のところにも何をしたら、どう動いたらいいですか？の問合せが発災直後多々ありました。そこで強く感じたのが、防災士の立場、位置が確立していないということです。どうして七尾市は県外のボランティアにばかり頼って七尾市在住の防災士に頼らないのだろう。ボランティアはありがたいけど所詮素人です。防災士は知恵もある、確かに当初は自宅も被害にあってそれどころではないと思いますが、大勢の防災士がいます。七尾市は絶対これを活用すべきです。
1	防災と救助等の技術の錬磨。他所との交流また情報交換ができる場。スキルアップ研修。市民、町民等に防災意識が高まるような研修。会員相互の交流と親睦など
1	
1	
1	
1	

1. 七尾市全体での防災士会、もしくは防災部会の連携を行う場が設置された場合は参加する。
2. 七尾市全体での防災士会、もしくは防災部会の連携を行う場が設置されても参加しない。

防災士間の情報共有などを目的とした組織の設立に関するアンケートにおいて、 A又はCと回答された方への質問

回答	備考
1	一人暮らしや高齢者の把握
1	
1	
	どのような内容か分からないので回答しにくい
1	
2	現状においては地域組織の活動への参加が限度である
1	
1	
2	
1	参加できたらと思うものの自身の生活基盤を整えなければならず、参加できないかも
1	
1	
1	勉強会や模範防災士会があれば視察・交流
	震災以降、七尾市から離れて暮らしている。会社は七尾市にあるので週に3日ほど通っている状況なので参加は難しいかも？
1	
1	
1	
1	
2	
1	町会からの要望で防災士の資格を取得しましたが、仕事等によりなかなか活動できないのが現状です。発災直後は活動できない。自身も被災しているため
2	
2	
1	
2	

- 1. 七尾市全体での防災士会、もしくは防災部会の連携を行う場が設置された場合は参加する。
- 2. 七尾市全体での防災士会、もしくは防災部会の連携を行う場が設置されても参加しない。

防災士間の情報共有などを目的とした組織の設立に関するアンケートにおいて、A又はCと回答された方への質問

回答	備考
1	
1	
	今のところどちらとも言えません。
1	
2	組織に属していない現況なので参加できません
1	
1	
1	
2	
1	
1	
2	
1	各地区で避難訓練が必要であると感じる。各自が備蓄（特に水）や防災袋等の普及もできるといいと思う。すぐにボランティアの受け入れが始まるので防災士会が…？町単位かと思う。防災士は各自他の皆さんはできることをしていると思います。
1	
1	ただ年齢的に若干の心配あり
1	
1	
1	
1	
1	
1	
1	
1	
1	

- 1．七尾市全体での防災士会、もしくは防災部会の連携を行う場が設置された場合は参加する。
- 2．七尾市全体での防災士会、もしくは防災部会の連携を行う場が設置されても参加しない。

防災士間の情報共有などを目的とした組織の設立に関するアンケートにおいて、 A又はCと回答された方への質問

回答	備考
1	
1	
1	
1	
1	行政主導では対応が遅く、このアンケートもしかり。Eの会が行政を動かす方がより迅速に対応ができる。
1	
1	
2	
2	
1	
1	
1	
2	参加できない可能性がある
1	
2	
2	仕事上
1	
1	
1	
1	
1	
1	
1	
1	
1	
1	

- 1. 七尾市全体での防災士会、もしくは防災部会の連携を行う場が設置された場合は参加する。
- 2. 七尾市全体での防災士会、もしくは防災部会の連携を行う場が設置されても参加しない。

防災士間の情報共有などを目的とした組織の設立に関するアンケートにおいて、 A又はCと回答された方への質問

回答	備考
1	
1	
1	
2	
1	
1	
1	
1	
2	
1	
2	
1	
1	
1	

- 1. 七尾市全体での防災士会、もしくは防災部会の連携を行う場が設置された場合は参加する。
- 2. 七尾市全体での防災士会、もしくは防災部会の連携を行う場が設置されても参加しない。

情報共有以外に防災士会の役割としてどのようなことを期待しますか。

回答
今のところなし
顔が見える交流
災害時に機能する組織であってほしい（頻繁に変わる町会長などをフォローできるような存在であってほしい。）
先頭に立って指導してほしい
災害が起きた時にどのようにすべきかを伝える
市議会、県議会に臆することなく発信をしてほしい。
消防については年間スケジュールに基づき訓練を実施しているが防災部会においても部分の互換性を高めるため訓練は必要と考えます。
各町の防災訓練、教育に協力する。毎年テーマを設けて各種事業を推進する。
防災士会として防災士のスキルをボトムアップすることが急務と考える
防災士と明確に分かる着衣と現場での指導
ボランティア参加などの要望取りまとめ等があってもよいのではないか。七尾市が各地域に設置している防災倉庫の機能拡充について、行政としてももっと積極的に活用すべきであり、最低限の備蓄資機材等について指導すべきであるとする。防災士全員の管理を徹底し正確な現状把握が重要と考える（参考：R060712北國新聞記事）
地区ごとの部会の連携（市全体は広すぎ）
誰もが防災意識を持つことが必要だと思う。
シミュレーション研修
応急措置の方法、発災時の必要な手順と人の連携方法等の訓練
どこまでが防災士の仕事かは分かりませんが、こんなときにどんなことをしなければならないのか、どんなことが出来るのか、せっかくある地区の防災部会の活動もなかったため、残念で、今後は即行動できるような場を教えてほしい。果たして今回防災部会として活動があったのか知りたいです。
今回の震災でいえばあまり活動できなかった。避難所の運営は市職員が仕切っていたことから、防災士や民生委員らとの協議も無かった。仮に市全体の組織が出来たとしたら「防災士」の人が分かるような服装、チョッキを導入していただければよいと思います。
現状の防災士には期待できない。誰でも取得できる資格ではなく、防災士として高い志やプライドが持てるよう、防災士の資格を得るための難易度を高くすべきと考える。
一人一人のスキルアップと地域防災力の向上を目指し、安全安心な社会実現活動に取り組む団体であること。

情報共有以外に防災士会の役割としてどのようなことを期待しますか。

回答
特別な訓練や専門知識が豊富なわけでもないが、理解に率先して動けるのでサブサブリーダー的な、記録、伝達係的な役割ではないかと思う。また発災前の防災（減災）教育的な仕事にも携われると思う
訓練の実施
この際といえば不謹慎かと思われませんが、いい機会なので積極的に町民の参加を促し、身近な町会単位の避難訓練の話し合いの場所を多く設ければいいと思います。身近なところから気づいたことを実施し、日ごろから「遠くの親戚より、頼れる他人」の大切さを身をもって体験すればいいと思います。
災害ボランティアへの参加、福祉ボランティアへの参加
各地域が抱えた問題点、これから予想される問題点を洗い出し、それぞれが抱える問題点にどう対応すべきかを話し合い、建設的な意見を出し合える場。自分の地域だけに目を向けた意見ばかり述べるような会では意味がない。共通に対応できるような意見が出る場であってほしい。
大きな災害では自分の所で精一杯でも少し落ち着いてきたりしたときに、他の地区なりに手を出せられたらと、でも仕事してたら難しいかな
平常時の防災、減災活動（特に訓練）について注力すべきと思う（町会レベルで…さらには隣接町会共同で訓練を計画実施するなど）
地域での協力ができるように取り組みをできるようになればいいかな。町民としてから参加して自分でもできることをするようになればと思います。
組織が大きく立派になればなるほど機能しない。独自の成り立ちが必要な気がする。矛盾してますが、形ではダメだと分かった。
避難場所の開設を誰がするのか
避難所設営などの指導
まずは能登半島地震の振り返りから
色々な災害に対する新しい取り組み方
被災者に対し指示・命令が出来る
実践に役立つスキルアップセミナーがあるといいと思います。防災リュックの中身は本当に使えるものが入っているのか？使い方は分かるのか？女性は避難先で着替えたり洗濯物を干したりなど避難先で女性目線での用意や生活の知恵講座、ペットと避難の場合の事 講座など
市内防災士が共通認識を持てるような各町内における災害時活動マニュアル作りができればよい。それぞれの活動にも根拠が必要と思われる。
地域とのコミュニケーション
避難所訓練の実施や避難所運営等に尽力できるように日ごろより他の機関との連携をすること。防災士も被災することがあり、支援に参加できない場合がある。そのためにも職場や行政の援助する制度、システムがあればと考える。
ITを使った減災の研究などプロフェッショナルな方々との連携による新しい防災対応の技術の習得などがあってもよいかと思います。
災害時の対応、避難所運営、被災場所へのボランティア、年間を通しての勉強会、避難訓練他

情報共有以外に防災士会の役割としてどのようなことを期待しますか。

回答
平常時から大規模災害に備えて地域防災計画を策定し災害発生時に広域的、機動的に対応できる体制の整備が図られ、災害発生後において自治体など公的組織や災害ボランティアと協働し、避難所運営や被災者支援活動が活性化する
実際に動けるよう1年に1回でも練習したい
各地区の防災士間の連携、親睦会などをして交流する
各町の役員さん達も防災会議に参加を期待
現状の地区防災計画などの推進などを活かしてもらいたい
会費をとる団体ではなく、ボランティアとしてできることをお手伝いできる団体であってほしい
防災士でなくとも災害が発生したら被害を少しでも少なくすることを、自分の命、家族の命を守ることを平常時から考えておく。七尾市民全員防災士の資格をとっても地震等の災害は止められない。能登半島地震でも各防災士の活動状況はかなり個人差があった。自分自身が被災者の場合は余裕はない。
速やかに防災士に連絡する？今回はなかった。事故の時の保証は？不明点が多い。かえって迷惑ではないかと？
今回のアンケートは遅いのではないかと思います。いろいろな面で後手後手になっているのではないかという声が良く聞かれました。
避難所の役割をもう少し一般の人に理解してにらうような取り組みができればと思います。
名前だけの防災士は必要ありません。適材適所で活躍できる人を望みます。
定期的な研修や防災士以外の方々への防災意識の向上
推薦した町会の意識づけも併せて必要である。
本人の自覚を促す
防災士として、町の状態をしっかり把握し、住民参加の訓練を適宜行う。自分たちも防災士として適宜レベルアップのため勉強会を行う
防災士資格のあり方に問題がある。点数だけで判定するのではなく、日ごろからどのような活動をしているか、防災に対する考え方など、対面又はレポートを提出し合否を決めてほしい。また合格後に年に一度は活動内容を報告するシステムを作ってほしい。資格をとることがゴールではない。受検をしようと思った人達の熱意を無駄にしたくない。準防災士とか、防災士補助とか、実際に活動する人口を増やす。
自己研鑽の場として活動につながるような研修の開催
いざという時に備えた訓練。
防災士ひとりひとり、日ごろ地元でどんな防災活動をされているか知りたい。
水、支援物資の配布についてルール策定。民生員（老人世帯）を交えた配布までの訓練も徹底する。
各家でできることを、1年に1度もしくは2年ごとに用意（備蓄）できる品物を置くことの必要性を伝える

情報共有以外に防災士会の役割としてどのようなことを期待しますか。

回答
避難所の環境の向上
研修会（スキルアップ）名簿の公表（横の連携）
防災士の資格を取得しても活動する機会が少ないように思います。日ごろから研修会、ボランティア活動等の場作りをすることにより、防災士の意識づくりが必要に思います。災害がいつ発生しても即、対応できるように、組織的な体制づくりが必要です。
機会があればと思い以前〇〇の勉強会に参加したことがあります。現在、ほんの少し参加したい希望があります。
市の各町会において同等な活動が出来て同等の救護ができる状況を作る
台風や洪水、地震だけではなく、普段からの現地の確認などをお願いします。
日常的に防災啓発ができる様な人員が必要かと思われます。
外部からのスキルアップ研修及び関連する講習会、防災訓練等に是非参加してほしい
地域とのつながりの強化
地区では、防災倉庫の点検を行い、実際に格納機器の動作訓練をしています。七尾市の防災士会となると、各地区への啓蒙的な活動や防災の日の防災訓練を促すなどはいかがでしょうか。
実務講習会を開催してほしい。防災グッズ（トイレ、スリッパ、防災頭巾等）
防災士の活動内容が見えてこないのが、活動状況が分かる写真、チラシ等を見る機会があれば参加者が増えると思う（実際どのような活動をしているのか分からない、参加して役に立つのか）
日ごろから、行政、社協との連携、情報共有。避難所運営だけでなく、ボランティアセンターの運営、支援物資の配布など行う。市役所職員がわざわざ避難所に張り付かなくても良いような体制づくり（他の市町の防災士会の活動を参考にしていきたいです。）
災害時、日本人も外国人住民に気配りができないことが現実。普段から周りに外国人がいることを認識。地域のつながりを持つこと。
講習会、交流会、視察会、他市町の防災士との交流会
地区の代表ではあまり期待できませんが、希望者ならば何か得るものがあると期待します。
会の役割は期待しない
活動に正解は無いと思うが、今回の震災ではコミセンのセンター長や地域づくりの会長等が中心になっていたので、防災士より先に地域住民として地域に溶け込む、地域住民と仲良く地域の活動に参加協力することが大切ではないかと思う。その先に防災士の仕事があるのでは？七尾で防災士が活動した事例があったらどんな事ができていたか知りたい。